竹村直久

年、 ら、 き見していました。 にある福 卒業 三十六歳ま 貴 してタ 方 田 調理師 ス で 口 ウ \mathcal{O} 専門学校 力 約一六年間。 レストランに就職し、今年二〇二二 です。二 の二年生だった二十歳 ずっと貴方 〇 五 五 年に貴 の生活を覗 \mathcal{O} 頃か

隠しカメラが見 ウス一〇二号室で、 に知られてしま その間僕 先月貴方が \mathcal{O} 存 いました。 つかってしまったので、 住んでいるア 在を貴方に クマ 、のヌイグルミに生いるアパート、駒沢 知られ ること 僕 仕掛けてお は 沢大学の \mathcal{O} 存 在 カ 秋 い桜たハ 桜

です。 たのに、 とでした。 僕 がスト その愛を拒絶されたことで憎しみに そもそも僕は貴方のことを絶望的 力 ーを 7 いた目的は、 貴方に復讐する 変わ に愛してい \sum_{i}

を把握しています。 僕は貴方のここ十六年間 ていました。 特に男性との \mathcal{O} 出来事は、 恋愛につ ほ ぼ 1 大体 ては重要視 \mathcal{O}

の付き合 して貴方が知ら 11 \mathcal{O} 邪魔を な してきまし いまま僕が た。 仕組 んだ行為に ょ 9

心 僕 ら好 目 つく様に仕組 きにな 的 は 僕が った相手 貴方 むことです。 にされ から捨て た られ \mathcal{O} と同じ様 て、 死にたいくら に、 貴方が

す。 貴方に 5 僕 は僕が誰 の存 在 な は貴方にとってどうでもよか \mathcal{O} か 全く覚えがな ****\ で しょ う 0 た ね \mathcal{O} で そ

ては追 でも僕は貴方と面 々書 1 ていきた 識 \mathcal{O} いと思 あ 0 た います。 人 、間です。 僕 \mathcal{O} 正 体に 0

孝弘 来た 僕 君と が貴方に復讐を は、 いう、 二〇〇六年 二二歳 誓 で方南・ の貴方が二一歳 9 7 か 5 大学の学 最 初 生でし の時 に 貴方に たね 相手 彼 は 氏 が 出

ある、 ま そ たね。 タロウレ 頃貴方は京王線 ストラン の調布駅南口から少し歩いた の店舗で、 調理師として働 所に 1 7

誘わ そし て合コン て七月二 一日に、 へ行きましたね。 専門学校 に 行 0 て た頃 \mathcal{O} 友達 12

お 店は 脇 新宿にある「 にあるビルの、 天空の宴」 確 カン 五階だ という、 2 たと 恵 歌 舞 ** \ ま 伎 す 町 \mathcal{O} 入

連絡 見に行 僕はそ を取 ことが でや 盗 S り合うことが一 くことは出来な \mathcal{O} N S り取 出来まし 聴器とカメラから、そ 日は仕事 りしてい でやり取りをするよりも、 が遅 カン 般的だったの るところを見て、 くまであ った のですが、 った の合コン ので、 で、 貴方 あ 携帯で話 大 の頃は 後で志島君 その 部 お まだ 屋 . 店 12 7

貴方が 男性と付き合う \mathcal{O} は 初めてだ 9 た \mathcal{O} かどうか 知

始 (x)らは、 が な 初 (x)とも僕 て 認 識 が貴・ した彼氏 方 \mathcal{O} ス た。 1 力

策を巡 思 らせて、 そ ました。 の志島君と貴方がラブラブにな 貴方が捨 てられる様 .仕向けてやろうと ったなら、 何 カン

為に 変装 を休 日 僕 その後彼から誘 野球 みに の顔 ま した。 を覚えていないことは分っ \mathcal{O} に品川水族館 して貴方たち 帽子を被って、 わ れ て、 の後をつけ へ行くと約束 その頃 貴方 が 仕 てい した 事 て が 1 こうと思 時は、 ましたが た眼鏡を外して 休 3 \mathcal{O} 僕も仕事 七 ま 月 念の

何を に、 構 水族 が多か 館 7 V) \mathcal{O} る 中を見てまわる貴方たち \mathcal{O} 2 た か 聴 \mathcal{O} で、 くことが出来ま すぐ近 に O11 た。 後ろ ても を歩 気 付 か れ て ず

槽 0 た 묘 中 す が ガラ ね 族館には僕 ス 張 り のト も初めて行きました ンネルにな つ てるところ けど、 大 きな が 凄 水

志島君 λ 貴方は の方はそんなに魚 割と珍しそうに に いろ 興味があ いろ な る様子では 魚を見て 1 あ ま りませ た が

け 可 聞こえた会話 な」とか言っ か 0 \mathcal{O} 中 7 で貴方が 7 る \mathcal{O} がさす \mathcal{O} が 魚どうや コ ツ クさんらしく 0 たらさば

志島君はなんだか って いて、 貴方 た わ のことをどの 1 ŧ, な 11 世 間 話 らい みた 好きなの 1 な ことを

もはっきりしない感じでしたね。

志島 と思 口 キ 途 君がトイレ ョロしてい 中で貴方が いました。 る顔 に行ってしま フ が、 トク J | 何だか全然楽しそうじゃな V) ムを 買 戻ってきた貴方が 1 に 行 9 て る 丰 間 日

ま 出来たから」とか素 いまし 結局また次の休みに誘われた時に貴方は「急に用事が 話 \mathcal{O} 後 \mathcal{O} \mathcal{O} たね。 ア あやふやな感 会話でも、 パ · に帰 貴方は つ気な じに苛立っている 0 7 い返事をして終わ 割とどうでも カ 5 志島君 \mathcal{O} カン が \ \ 5 掛 りに 分り کے 1 カン う感じ ま 0 した。 7 き

ってしま った。 貴方が志島君とラブラブに 僕は見ていただけで何も いました。 なる可能性なん しな カン 9 たという て全く無か か、 笑

は 気持ちに 志島君 っきりした気持ちもなかったんでしょうね。 も自信 はまだ若く がなくて、 て恋愛経験 貴方とどうしたい もあまりな < て、 という様 自分 な \mathcal{O}

も合コン と呼んでいる人に誘わ その年はまた同じ専門学校 にい きま した ね れ て、 の時 八月十八日と十月十三日に の友達、 貴方が ツ コ

で貴方に ることは ア の志島君 プ 8 た気持 口 あ の経験 りませんでした。 チしてくる人がい ちに なってい \mathcal{O} せいもあ たの ても、 0 か てか、 貴方が 男性たち 貴方は 連絡 先 中

日ま する 初 あ る実家へ帰省しま の年末 で三日間 \mathcal{O} で 年 \mathcal{O} 貴方は年 \mathcal{O} ね 休みを取 明け でも 方 たね が 9 十二月は タ \mathcal{O} て、 口 ウ 新 \bigcirc V 潟 お 七年一月十 ス 県新 店が三十日 \vdash ラ 潟 市 日 \mathcal{O} 秋葉区 から十二 ま で 営 7 業

する まだ で 僕 £ _ 専門学校 \mathcal{O} めました。 を尾 緒に行きた 行 して一緒 の二年生だ でも実はこの前年 カ 0 に 新 9 たけど、 潟まで た 時 \mathcal{O} 行 年 仕 末に 事 ったことがあ が 〇 六 は 休 8 貴方 年、 な か 貴方 が る 0 帰 が で 省

仕掛 近くか <u>|</u>事を そ けることが出来 \mathcal{O} 時 ら貴方 は 7 まだ貴 カン 部 方 0 た ていな \mathcal{O} 屋を見張 ので、 ア バ か 毎 0 0 た 7 日朝から貴方 いま 隠 のですが、 しカ た。 メラ 僕 ŧ \mathcal{O} は T 盗 そ 聴器 \mathcal{O} 頃

を持 した そ 0 何 月二 処か にこ から出 出 日 掛 \mathcal{O} 朝 け +ることが てきまし 時頃に、 た。 あ 貴 れば 方 後を は大きな旅 0 け 7 行 1 鞄 ま

だろうと は 新潟だ 年末だ 恵 と言 カン ら帰省する 0 て、 0 7 いたか 後 をつ \mathcal{O} 5, かもしれ て行 そんなにお くことに ない کے 金も掛 思 しまし \<u>'</u> た カン 確 5 か 地 元 11

う ラ 場券を買 で ハラしま 、切符を つて、 したが 買 0 て 貴方 1 るうちに見 何 処 失 電 12 もと 車に乗って、 9 たらどうし りあえず 僕 後

から車掌さん 乗 東京 り換え 駅 カン て「さ ら新幹線 に お き野」という駅 に乗 を払うと って、 いうことで乗 新 潟 で降 駅 で J R Ŋ 切 \mathcal{O} 信 りま 越本 ね 線

貴方のご実家は駅 0 から歩いて十五分くら りま 1 した のところで、

道路 とか広 々として いる住宅街にある 「たまや」という

食堂ですよね。

ね。 9 て自 ご両親が経営し 分 \mathcal{O} レス トラ て 1 を る 開 λ < ですね。 \mathcal{O} が夢だと 貴方は 1 将来地 9 7 1 ま 元 戻

をウロウ もう中の で来たの れど、 食堂と 貴方がいたら顔を合 繋 で、 口 様子は分りません お店には現 して、 が 僕も 0 7 夜にな お 1 · 客 ħ る ま わ 自 \mathcal{O} いせん せな フ 宅 0 リをし たらお客さん でした。し \mathcal{O} 中 でした。 い様にしようと思って に貴方が てお店 ばらくお に入 が 入 沢 0 りま Щ 7 「きて混 店 した。 ま \mathcal{O} 周 うと、 n

母さんも優しそう \mathcal{O} 食堂 立にご両 親 な人です が 切 り Ŕ 盛 り 7 1 て、 お 父さん ŧ

気 ですね。 お店はそれ程大きくな 0 たです。 あんかけご飯 ** \ の定食を頼みました、 けれど、 とても家庭的 とても美 な 雰 开

手さん てみた でも \mathcal{O} に 日 5 駅前 力 は プ 何 セル 隣 に 処 カン ホ ホ テ 近 テ あ ル 4 泊 るビジネ カン もな た まらなけ 1 な 1 ス \mathcal{O} \mathcal{O} ホテ れ は で、 あ ばならな りません ルへ連れ タク シー か \mathcal{O} لح 思 運 聞 0 0

 \mathcal{O} で、 そこで一 泊 することに し ま

朝 か ら町 の 日 は貴方 \mathcal{O} 中を歩 \mathcal{O} 育 いてみま つた地 した。 元を歩い てみようと思 て、

きっ カン と思いました。 λ ったけれど、 近 でした。 くを流 と貴方が子供 れている能代 名前 貴方が通 の頃はこの辺りで遊ん ŧ 分らな 川は っていた小学校とかも見てみた 広く いの で行 てとても くことが出 でい 綺 たのか 麗 「来ませ な、 た

ス 見したり出来るアプ まま電話 な スマートホンには、 た。 って、 ションをダウンロ 7 \mathcal{L} ホ の年 に そ の会話を盗聴した 四月に貴方もガラケー は ア \mathcal{O} アプリをダウン ツ プ ル 社 リがあ ードしておくと、 持ち主に気付 から最 ることを知 り、メールのやり取りを盗 初 ロードすることに成 から買 \mathcal{O} かれずにあ ス 7 って、 Vì 本人が気付かな 換えました 1 ホ るア 僕は貴方 が 発 リケ ね 売 \mathcal{O} みい

その ていきた 時 どん いと思 な 方法を使 います。 0 た \bigcirc カュ に 0 1 7 は、 追 々 説 明

掛 けてい る様 この頃僕 貴方 ま な 〇一号室 以は貴方 した。 \mathcal{O} り ました。 行 動や交友関係に でもそ の中 の住んで にこ \mathcal{O} 台の ス 1 た 7 ホ 隠 阿 佐 \mathcal{O} 谷 カメラと盗 T 深 プ のア IJ \mathcal{O} バ 知ることが お 陰 聴器を でよ 西 出 仕 ŋ Ш

後 貴方 ね に \mathcal{O} 彼 氏 が 出 一来た \mathcal{O} は、 そ \mathcal{O} 年 \mathcal{O} 五. 月 \mathcal{O}

七歳 調 理場 しま で長年や ン たね 1 ウ です。 他 0 ているという、 ク 店舗 に ア 調 カュ ル 理 5 何 \mathcal{O} 日 堤 常 だけ か チ 交代 田 豹吾 れ フ . ど 明 が 調 کے 大前 理場 調 いう二十 を 支店 崩 \mathcal{O}

うと け 髪 僕が で ていたからです。 事 タ お カン 店 口 ウレ ŧ る の事情にもどうし 日 口 スト ツク 以 ラン は 口 口 調 ツ ラー 布 ク 店の てここまで詳 バ という感じ ン ド 中にも、 で 活 動 盗聴器を仕 L \mathcal{O} 1 人でしたね \mathcal{O} かと 長

てい 時 員さんも ラ だプラグ あ 間を見計 ンチタ る 僕は変装 るコン レジス 1 に差し替えま 一人くら セント 5 ター が終わ 0 てお客とし があるカウン プラグを引き抜 を 隙を見て 0 した。 残 てほとんどお してラ 7 お ター レジ 店に チ ス 入 に 1 ター 客も 一番近 0 の片付け作業 て、 の機 いな 盗 聴器を仕込 1 入 席に 械 くな ŋ が繋が ・座って にな り、 \mathcal{O} 前 店

たらばれ プラグ だ る 0 を引き抜 た かと思った ので、 いた時 そ \mathcal{O} \mathcal{O} にも まま成功 ですが、 幸い しま ス タ た。 ッテ \mathcal{O} 電源 IJ が 蔵 落 型 ち

店 は 高 うことが \mathcal{O} 性能 ボ 7 出 来 ユ ま ムを上 調布 店 は そ ば れ 厨房 ほ で会話して ど大きな

をき てきて か、 田さん 怖 誘 物 0 知 う人は てくる人でした らずでグイ さす 口 ね イと貴方 ツク ? ユ に気安い t

れる様 ま 僕 画 た に 的 全くな らどうしよう……と気が気でな 目的は貴方が好きにな に は 向 け 好都合なのに、 ることだったの ワ ルドさがあ 心 で、 の中は矛 った人から つて、 貴方が 貴方 盾 カン して 酷 った 好きになる方 が ですけ 傷 1 ま

 \mathcal{O} か 五 聞き取 月 が 聞こえま 日 ま \mathcal{O} せん こしたが、 事 でし 中 に た。 常 声が小さくて何を言 田さんとこそこそ 何 ってい カン 2 7

る きっ \mathcal{O} かと思 近 とお 店が終わ で出てく 9 て、 お店が閉店する る 0 のを待 てから何 って 処 時 か 間に ま へ 行 · 行っ た。 こうと誘 て、 お店 9 7 \mathcal{O}

の方 ま ず先 ば 歩 へ行き、 に常田さん 立ち止 て貴方 きま そ が出 ま が した。 出てきて、 頃まだあ 0 てタ てくると、 バコを吸っていました。 った地下通路を通 ちよ 常田 0 と離 さんと一 n たとこ 緒に 0 7

僕は 念 ま の為 た。 に 野 球 \mathcal{O} 帽子 を被 0 眼 鏡 を

て貴方 は常 田さ いうちょ んと一 0 とお 緒 に 洒落 北 П な \mathcal{O} 洋 飲 風 3 居 屋 酒 街 屋 あ る

っていきました。

りま 貴 方たち が 入 0 7 から五 分くら 11 待 0 て、 僕 £ 店

ちょ 貴方と で ひとりで座りました。 7 つとはす向 それ 常 だけ ほ 田 ど目立つことも さん れど、 かい \mathcal{O} こと の様な位置 あま は 他にもまばらに り近 すぐ な 0, カン に と見つ 見 ったと思 0 け 掛 な カン 7 客さんが け る 1 ま のテ カン 隣 す と思 \mathcal{O} ブ が

ライ 出 した。 見せられ 一来なか 貴方た ブがある 貴方は常 5 て、 ったけど、 \mathcal{O} ので、 会話は途切れ 乗り気でいる感じで 田さんからライ 貴方に 近々 常 来て欲 田さん 途 切 ブ れ した。 のチラシみたい のやって いと誘 か 聞 き取 いるバンドの っている様 る こと

日 は貴 田 さん 方 の二十二歳 \mathcal{O} バンドの ラ \mathcal{O} 誕 生日 ブ は 五月十 でした 九 ね 日 に あ 9 そ

ウスへ向 貴 方 りして、 は そ いま \mathcal{O} 日 目黒川の近く した。 の仕事を早番にし にある て貰い 祭典館とい 夕 うライ 方 五 時に 早

が た。 分っ 僕もそ 7 \mathcal{O} た 日に合わせて休みを取 \bigcirc で、 ライブ ハ ウ ス \mathcal{O} 9 て、 外で待ち伏 貴方が 来る せ 1 ま

歩 と短 きた貴方は スカ 凄く ートを履 、お洒落 F° ク 11 系 て、メイクも してきて \mathcal{O} ブラ ウ る感じがしました。 ス کے 1 才 0 もよ り ク ち

貴方が 7 か ら僕も当日 中 \sim 入 0 7 + 券 五. \mathcal{O} チ 分く ケ 5 ットを買って 11 待 0 て、 中 中 へ 入 で演奏が りま

に ゆうぎゅうに置 かく耳 ライ ステー 中 -にぎっ 音で が **/**\ ウ 痛 ジにも音 ス カン か لح り 僕は音楽だ 0 た にです。 響機材とか、 う ていて、 9 は カン 7 初 な 1 8 何よりも演奏が んだか て、 7 ドラム 入 暗く りまし 分らなく セ 7 た 顔も見えな ツ け 地響きみた トとかが って、 شك ぎ

手を振 から見えるところに 貴方は ステ 9 たりして ジのすぐ前で、 ましたね。 いて、凄い ベ] IJ ス を IJ 弾 11 で手拍子した 7 る 常 田 さ

演 奏会が終わ て外 出ま 0 てお客さんたちが た。 外 ^ 出 始 \Diamond る 僕

1) きま 貴方が \mathcal{O} て行きま 人たち す。 出 みんな と一緒 てくる た。 で 出 を見 何 処か てきて、 張 のお 9 ていたら、 店に 駅 とは反対 入る 常 \mathcal{O} かと思 \mathcal{O} 田 さん 方 へ歩 7

る 店 ラ み屋 僕は ブ ま き した。 0 店 لح とそ る の前 同 は で待 口 通 とても目立 12 0 口 り と上が 遅 て に 並ぶ くま 11 ま した。 って お 0 店 は 7 1 \mathcal{O} 貴方は まう感じだっ な きました。 中 で、 二階 明日も仕 Þ そ た

て二時 間 5 1 経 0 たとき、 貴方は 常 田 さ

んと二人で階段を降りてきました。

さぼ きま くて、 田さんとキスをして りあ 田さん した 涙がポ 7 0 そし が貴方 てるみた 方 口 ポ 向 口 こぼ かうだ 肩 いな感じ を抱 した。 れました。 植え込みの木 いて、 ろうと思 でした。 ŧ の凄 目黒 0 僕 Ш た く顔を動 \mathcal{O} 影 は ₽ 方 へ折れ \mathcal{O} 凄 って نخ (カ てむ て行 途 常

をちゃ に二年間 自分に言 っていたからではな この時 僕が と見て、 は常田さん 復讐する 聞 貴方 カン せま \bigcirc ことを見張 は貴 した。 0 カュ か ことが 方に り策略を練 と自分を励まして、二人の様 対してな 憎くて溜ま ってきた って \mathcal{O} \mathcal{O} は、 らな で、 いかなけ ここま この時を カン 0 子 既

常田 んが貴 こそ た 貴方が本気で好きにな さん 僕 方 が を裏切る様 \mathcal{O} 交際 やらなけ が 本 仕 的 ば ならな 向 0 に け な た る方法を考えようと思 相手から裏切ら 0 てきたところ いことな \mathcal{O} です。 で、 れる 貴方と 常 1 田 3

だ ったの 田さ る か λ ŧ, で、 は 遊 れ 常田さん な \mathcal{U} 人 11 と思 で \mathcal{O} 1 ろ 行 1 ま 動を探 λ な女 た。 の子 ば نح 何 遊 カ 良 ん で 1 方 1 法が る 感 見

 \mathcal{O} 閉 店 田 3 時 カン ら 三 間 λ に が 貴方が 出 日 て来 後 \mathcal{O} 出てくる 五月二二 この前 日 \bigcirc を見張 と同じ場所 \mathcal{O} 夜 9 7 \mathcal{O} で貴方を待 1 日 ま ŧ, 僕 た お 先 0

乗り ま た 後 カコ ら出てきた貴方と 緒 に 調 布 駅 カゝ ら電車 に

緒に 食屋 みた 途中 段な ら新 桜 宿 ま で降 緒 りて、 ところ りま 常田さん を、 したね 貴 方 に は 連れら 常 田 さ W て定 کے

街を歩 は常 そこで 田さん 何 が カン 住 食 古 事 T るところでした。 出 てくると駅 っていきま \sim は 戻らずに した。 そこ 住宅

僕は足音を忍ば 1 ま した。 階 \mathcal{O} 奥の 部 屋だ せ 7 F 0 た T の前まで行き、 他に人影も な 聞き耳をたてて カ 0 た \mathcal{O} で、

 \mathcal{O} 後静か じゃな 丰 ツ キ に な カン ヤ と思 کے り ま 楽 いま た。 そう した。 に笑 中 ではきっとセ 2 て る声とか ツ クスし 聞こえて、 てい る そ

を抑えな 前 誰 で とも 貴方は でしょうか は ようか どうだっ 僕 が ツ ら歩 が ク 僕は ス それ \mathcal{O} ま で せん 力 T ともこの しょう \mathcal{O} 桜 前 にな でし 水 カュ カン ?ら体 た。 時 って が ま 誰 僕 で 中 初 カコ カン が が ら約 戻 と男 \Diamond ブ り ス 二年 性 ま 体 経 験 ル震 た。 験 力 \mathcal{O} だ 間 は つ あ た な は た \mathcal{O} る

う 貴方は とは 僕 セ のことは塵ほ ス てし どに まう 、 も 思 \mathcal{O} カン 0 7 と思うと気 ****\ な \mathcal{O} に、 が 狂 あ 7 W

対 時 る は 嫉妬 貴方 に を強 対 す Ź く感じてしまいま 復 讐と 1 . う ことよ した。 り でも貴方 常 田 さ

励 ま は で 方向 き した。 \mathcal{O} ろうと、 性 思 とし から傷 いをぶ て矛盾 B 0 りた つけ け 5 7 て必ず実行 いことは る 11 な 様 11 致 それ てやろ して てやろうと自分を が うと ****\ 嫉 る 妬 心 思 カン 5 0 目 た 的

僕は 桜 です あ り が 駅 ま 時三四歳 せん から電車 僕 で \mathcal{O} で た。 した 半身はずっ に乗 が 2 て まだ と勃起 席 女性 に 座 ろ لح して う セ کے ツ 1 \mathcal{O} 7 気 で 付

像を見 家 に 帰 7 1 0 たけ て貴方 れど、 \mathcal{O} ア ١٩ P 0 ぱ 1 り貴方 に仕 掛 は け 帰 た 隠し 0 て来ま 力 メ ラ \mathcal{O}

過ぎに 日 でした。 てまた 日 \mathcal{O} 度 五 出 阿 隠 僕は 月二三日 掛 佐 力 仕 け ヶ谷 事 行きま だ ラ ア 2 バ た 貴方 映 像 \mathcal{O} た。 が を } で夜 毎 確 12 家に帰 週仕 認 戻 9 事が て、 ま 0 た。 お 着替えを鞄 7 から、 休 貴方 4 \mathcal{O} 尽 画

次 が そ 日 方と常 は ね 常 日 田 田 5 さ 夜 はまた常 W \mathcal{O} \mathcal{O} メ T バ 田さん \mathcal{O} B から り \mathcal{O} 調 T 取 パ 布 りを見て \mathcal{O} お 店 12 泊ま 分 出 り 勤 0 7 た た

7 僕 て、 たけれど、 が 安定に 長年無駄 自 分 に 0 大切 の精 て、 神状態をどうに 仕 事 t 行 た童貞を捨てて きた かしな 7

で変装 まお 何 した か恥ず うと思 そこ 復讐 へ行く 調 いました \mathcal{O} 11 方 ま 法 気がして、 川 崎 のには を考えることが にある そうすれ 変装する必要もな やは ソー り帽子と ば プラン 出来 僕 \mathcal{O} ると思 欲 F 眼鏡を取ること 望も落ち着 11 へ 行 った のだけれど、 ってみま \mathcal{O} です。

けれ 話 勃起することはあ \mathcal{O} しかけ 人はと お店に ٢, 裸にな てくれ 入るまでは緊張 ても感じが良くて、 る っても、 りませんでした。 優 しい人だ した 何をされても僕 け 僕が黙っ ħ った ど、 7 \mathcal{O} 初 のペニスは全 で安心しました。 1 \Diamond ても 7 会う 1 風 0 ぱ 俗

9 ていた てしま て、 始めて生身で見た女性 常田さん いまし のに、 た。 のア ピクリとも勃起することな パー 1 の身体には、 の前に いた時は ま る あ で現実 んな 時 間 に 感 が 勃 終 が 起 わ

け って、 風 لخ 俗 女 風 \mathcal{O} 俗 たくな \mathcal{O} は僕にごめ は りました。 何も悪くない、 んなさい 僕は とい ŧ, 0 \mathcal{O} 7 凄く 謝 0 虚 7 1 た

と思 **!動を探** でもそん い直 して。 ってみる な気持ち 僕は ことに も復讐 出 来る限り常田さん しま \mathcal{O} した。 エネルギ に \mathcal{O} 後を なけ 0 け ば て、

た 田さんは 本来 病 職 場 してい る た堤チー 明 大前 駅 フ が に 調 あ 布 る 店 店 舗 に復 帰 戻 り ま 7

は 週 に 兀 日くら 1 入 0 7 1 て、 そ \mathcal{O} 他 は 千歳烏

7 あ る貸 ス タジオ で ン F \mathcal{O} 練習を

店 またバ で一緒にバイト ま F \mathcal{O} フ ア \mathcal{O} る 女 女の \mathcal{O} 子 と合 子たちと飲 コ ン みに行 た り、 0 明 た 大 前

たが F 貴方と常田さん \mathcal{O} 打ち 常 合 田さんが わ せに行 コ \mathcal{O} か 行 嘘 を \mathcal{O} 時 り取 は、 りを読 ま 貴方に た。 W で は バ ま

 \mathcal{O} 僕 は居 ドが運営して ろを写真 酒 屋等 くこ · 撮 いる 田 「さん って、 掲示 が 板 他 女 子 と親 ました。 の常 しげ 田 さ 7

した。 の投稿者とし それは貴方も見 そう、 あ 7 の僕 \mathcal{O} 時 7 あ \mathcal{O} 画 像を投 F 5 知 稿 は た すよね、 のは僕だ ベンジ そ つ た で 時 \mathcal{O}

る 写真には のかな」みたいなことを書き込 た素行が 干 伝わ テ 干 る様 テ \mathcal{O} 常 に しまし 田 さん た。 んで、 に は一 貴方 体 何 に · 常 彼 田さ 女が V

佐 貴方か た の貴方 ね 5 \mathcal{O} 怒 \mathcal{O} ア り バ \mathcal{O} 留守番電話を聞 1 来 て、 謝 1 0 た常 た け ど喧 田さん 嘩 は 阿

た 僕 喧 0 力 一華が た。 メラ 激 کے 盗 聴 なれ 器 でそ ばな \mathcal{O} る程 様子を見 僕 は 7 嬉 11 ま て溜まら

為 は 本当 常 \mathcal{O} ことだ 田 さ 画 像 を が た 貴 T 方 ツ で プ す。 誰 てん カン だよ」 が 俺たちを とか 別 1 ħ 0 させ 7 た

責め せん でも誰 7 で が投稿 ま ね。 した 貴方 した な S たすら常田さん ん てことは貴方 に \mathcal{O} 酷 は 関 いところを 係 あ ŋ

方を傷 11 ま き したが 0 ともう常 つけ 7 僕はも りた 田 3 0 کے لح 他 思 \mathcal{O} 関 1 \mathcal{O} 係 ま 画 像 は も投 ダメ た。 に 稿 なるだろうと て、 ŧ, 0 لح 思

だか タで話 た女が た。 僕 てま う そ としては、 だと分る様に 文章を書き込んだ時は 荒ぶ れを にな くだらなく て掲示板 0 た 見 復讐を果た 男みた んね た貴方は 青臭 策 , え _ 上で常 略通 「バイ って、 みた りに 部 色気も 屋 トで 田さん 覚に 傷 で泣 ただ いなことを書き込みま 僕 う け ね \mathcal{O} 遊 感 丰 って、 え プ て ヤラク いま に行 \mathcal{U} りす った な 気持 ま 何 2 はずな た タ 12 た あ よ ちよ りま ね 先で引っ て、 り 7 とは ジ エ に だけ カン せ ツ \mathcal{O} 貴 全く違 た。 チが 方 ń た。 سلح 何 け

が カン ズ だ 満 離 足感 0 ŋ ました。 た れ \$ させてあげ \mathcal{O} で、 なく 貴方に た様 何 復 よ 讐を り常 な感じに 田 たとい さ な λ کے 0 うよ いう人 りは کے ても は 本 悪 男

れん ま \mathcal{O} ア 日 貴方 ね 緒 1 は 調 \vdash 早番 \mathcal{O} 理場を担 でお カン 5 当 店 何 \mathcal{O} かあ てた村、 調 理場 0 た 永さ で仕 \mathcal{O} λ カュ 込 という 4 1 ? を کے お さ

と答え λ きっ でしょう とあ れだけ ね ました。 貴方 泣 は 強 7 が 1 た 9 7 カュ ら目が 別 12 な 腫 に れ ŧ 7 あ 1) りませ り λ

貴方 をし 様 6 だ あ て、 ライ け どなんだか に指示され لخر 村 永さん 何よ ラする 最初に見た時は 仕事上は ŋ だろう とい 田舎 る 1 い歳 ことも当た 社員 う \mathcal{O} な 訛 お な じさん び \mathcal{O} り \mathcal{O} という。 貴 が に 0 あ り前 くり 髪 方 \mathcal{O} \mathcal{O} 0 は 毛が金 感じ 方が 貴 しま \mathcal{O} 様 方 \mathcal{O} した。 話 に 立 ょ 髪で、 場が 人です し方も して り ず 0 緒 ま ね 黒 لح \mathcal{O} カン 5 眼鏡 Ź た り

間違 チキ 怒られ えたた ステー 後六月二二日 のは堤 たことがあ 1 キを出 お客さん チー りま す順 12 カュ らク のに、 番 調 た を間違えて、 理 ね。 レー 場 そ \mathcal{O} ム 才 を貴方 がきた ブン 生焼 時 \mathcal{O} で せい に、 焼 け \mathcal{O} にさ 本当 物 を は 出

 λ は が 自 時 分 した。 る \mathcal{O} と声 周 村永さ り \mathcal{O} 様 は 慰め 子 が おか る、 てく カ 7 ま 優 0 た したね。 り、 1) 人なな 可哀そう のかな 村 永 X

う 調 理 \mathcal{O} ・う男 は学 場 浜 \mathcal{O} 生さん 人たち 草 \mathcal{O} さん 1) え のこと な لح ば B **,** P \mathcal{O} でし り取 う人と、 0 が好きな ば ようか りを聞 り 調 貴方は ん です 1 どうも主 てると、 ね 仲 ア が ル 悪 任 か 浜草さんと \mathcal{O} 0 中 た -野さん で す ね

関 直 合 係 でもそ は それ 4 従 とい わ た うの を嫉妬 な \mathcal{O} な < 中野さん は って、 て、 何処も難 してる 月七 貴 は貴方に から、 方も声を荒 日に しいも 仕事 野菜 好意を持 \mathcal{O} だ げ 一の貴方 な、 洗 7 0 11 11 方を巡 と思 ま 7 \mathcal{O} 1 たね 指示 いまし て、 0 て言 浜草さ ,も素 間

とり そ 0 て、 7 で歩 次 隣 調 \mathcal{O} 布 7 \mathcal{O} 日 京 ま 王 多摩 月 た ね て、 日 |||駅で に、 帰る 貴方 降 り \mathcal{O} は早番 とは反対方 多摩 で 入 \prod 向 9 \mathcal{O} 7 \mathcal{O} 泂 早上 電 原 を 車 に

た。 チル きっ ポ K ツ F を操 7 曲 る て、 は カン な、 1 耳 つも に と思 部屋 Y 1 ホ ま で 聴 を た。 付 1 7 け 7 るミス ま

リ貴方 た 多摩 姿が 河 見え 原 は広 5 て見通 1 \mathcal{O} 離 が れ 1 た ところ 1 \mathcal{O} で、 か ら見 僕は ギ 7 IJ 1) ま ギ

まし た、 風景 た。 新 と思 潟 を見 貴方も 1 \mathcal{O} ま 貴 7 方 1 きっ たら貴方 \mathcal{O} 実家 と故 \mathcal{O} 近 が 郷 帰 < \mathcal{O} 省 に 風景を思 あ た 0 . 時 た 能 に 1 後 出 代 を Ш を思 て 9 け る 出 カン 0

とがあ 原を歩いていましたね。きっ また違う日にも、 った時に来る 貴方は のかな、 何 と思 と何 度かそこへ か考え事とか、 っていました。 行 0

なく、 きそうに 配属され していました。 貴方が誰かと出掛ける後をつけることが出来ない りました。 ただ僕が貴方を観察して、 な 感 てからしばらくして、 じで、 ったら復讐の機会を窺う、 でも貴方が就職してタロウレス 貴方に は 全く僕 僕も仕事を始めていたの 貴方の \mathcal{O} 存在 という日々を過ご 恋愛が上手くい を 知ら トランに ること 時

新宿 ましたね。そんな夢を持ちながら、 する定食屋さんを洋食 -トに行 貴方は の時もあれば、 って ったり、 ゆ Ź ゆく いました。 は 映画にもひとりで出掛 早番 地元 \mathcal{O} レストランにした の新潟に戻って、 \mathcal{O} 時は仕事帰 休みの りに下高井 け 日には ご 両 7 いま 親 デシネ ってい した。 コ \mathcal{O} 経営 サ

も見ていな ろからの貴方の姿に見入っていま 8 後ろで一 メ \mathcal{O} 緒に カン 時をか · と 思 り見 観 って大泣きして 7 いま ける ま した。 少女」 した。 映 を観た時 した。 画 1 まし の内容よ た は ひとりだから ね、 僕 りも斜 も貴 方 8 誰 後

0 画 り 帰 りに 緒 はよくひとりラ に食べたことがあ ります。 メン てました ね。 僕

年明 年 は 日に お 貴方は二十 \mathcal{O} 休みが 暮 は 戻 少な つ て 九 店 1 日 は 三日から から休みを取って 十二月三十日ま ので大変ですね。 の営業に で営業 · 出 社 新 潟 帰 9

来ま て 二 \bigcirc 八 年 \mathcal{O} 五 月 に 貴方に三人目 \mathcal{O} 彼 氏 が 出

テ 0 て、 A 智則さん 五 月十三日 そこで知 新宿本社 کے いう、 と り合 で調 <u>광</u> 週 理担当 った新 \mathcal{O} 歳 + 宿 \mathcal{O} \mathcal{O} 日 社員た 西 で 口店 タ ちを集め 口 ね 調 ウ 理主 V ス た 任 1 だ 研 ラ 修 0 た が あ 柳

に話 電 話 ごく 惹か し込ん 修 てい \mathcal{O} 真剣で、 <u>一</u> 日 目 れ ましたね ている感 で いる様で、 の日 そんな じが伝 \mathcal{O} な 夜、 彼 柳 んだか料理のことに 家に帰 ΪÌ わ \mathcal{O} さんという人 ことを貴 ってきま 0 て貴方は 方が た。 人は料理に IJ ス 柳 0 さ 対 熱 W 心

食べに して勉強 行こうと約 の為に 束 一流 ま V た。 ストランを予約して、 緒

とて ら片 祝 てきて、 五月十 ってく も楽 で 凄 しそうて 日 く良 7 る人なん さ の貴方 雰囲気にな の二三歳 嬉 ヌ 7 しそうな気持ちが な ミをず って \mathcal{O} 誕生日に ですよ」 **V**) ま 2 たね 撫 な ŧ 伝 電話 ぜ λ わ てい て 0 てきま 貴方 が掛 1 ま 1 は な た。

夜 きま 月二 早 あ が したね る F 日 り ス は } 早番 て新 口 宿 シ で朝 ヤ で柳 カン らお 川さんと待ち合わ アというフラン 洒 「落な服装 装 ス で 料 出 せ 理 て、 \mathcal{O} お お 店 茶

出 万 僕 な は遅 円 カン を見た くま カン 0 たけ 5 5 な で仕事 れど、 W 7 凄く豪華な感じ があ 本格的 1 ンターネ 0 た なところです \mathcal{O} で ツ お店を見に行 で紹 コ 介され えも ね S <u>:</u> ك てい り 一 る

る 何 んだ ろうと、 僕 は 貴方が それ 何 ば 時 カン 頃 りが気 E どん な顔 になっ を 7 いまし 7 家に た。 0 7

を食 互. 夜 れ ころに たところ \mathcal{O} 録 そして、 べ終え 十時 に今 画 ŧ, 頃に帰 日 貴方 いた隠 笑顔をして、 柳川さん てまっすぐに が ってきま 部 を 屋に 力 ざん メラ って . 戻 帰 う 倖 た。 人の真 ** \ \mathcal{O} せそうで か 0 0 ました 5 て着: 映像 てきた感じ 電 時 を見た 間的 話 替えを済ませ、 面目さを感じま ね、 が た 掛 に ところ、 ţ そ カン でした。 0 の時も貴方は コー てきて、 貴方は した そん ス料 一息 お な 理 11

0 た な は で کے 今度こそ 思 1 ま 雰囲 復讐を果たす時 た。 気 で、 上手 が B いきそうな ってきた 恋愛だ \mathcal{O} か t

柳 な 貴 `さ 柳 \mathcal{O} メ Ш さん X ルア K で設定 メ V ス や電 \mathcal{O} たア B 話 り 番号も F 取 り ス を から、 分 見 9 7 7 VI 柳 11 川さん ました。 \mathcal{O}

る 主任 て、 て送信 け 7 私は て欲 \mathcal{O} ٢, 男 8 しま 性 実は 匿 7 を巡 11 と思 るとか 男遊 た。 の女子 を送 って U ア メ ですが貴方 が 9 ル 激 事実をデ バ イト 貴方 しまし 1 とか の女の のことが フ た、 才 見 ル 調 子 真 4 メした悪 布 好きな と三角 た 店 面 目 1 で な そう ŧ 体 関 \mathcal{O} を 裁 で 係 理 気 に 見 を な 1 で

なメ たね。 うな そ \mathcal{O} かな、 後 が来たことをひとことも貴方に 柳 Ш と期待して さんと貴 方 いた \mathcal{O} 電話 \mathcal{O} ですが P メ ル 柳川 話 \mathcal{O} しま P ´さ ŋ せ λ 取 はそん り が

態度に変 度送っ £ カ 化は見 た たら送信 のですが られません 出 それ 来 7 でし でも 1) な た。 柳川 か 0 さん た \mathcal{O} の貴方 カン と思 に対する 11 もう

れ ですが、 何 は本当に重要なことな でだ ろうと思 Þ は り同じでした。 三度目 λ で す に送 と書き加えて送 9 た 同 U メ ル 0 に た \mathcal{O}

じま はず ちらが送信完了にな な た。 \mathcal{O} で すが これは意識 つ て **\ る \mathcal{O} で、 て無視され 5 Þ λ と届 7 る 7

探 と思 7 B ら逆に ろうと思 、ま た 柳 常 ||ま さ 田 さ λ た λ \mathcal{O} 何 \mathcal{O} 時 か 弱 \mathcal{O} 様 味 に カン 柳 陥 \prod さん れ るネ \mathcal{O} 動向 タ な

さんが 勤 8 る新 宿 \mathcal{O} 西 地 下 に あ る タ 口 ウ

顔 7 カ を 張 ラ で 0 す 支 た 考え 0 で 出 行 きま てみ てきた そ た \mathcal{O} ら後 ら僕 日 は を 諦 は お 店 柳 \Diamond け 7 帰 さ 裏 7 W り \Box ま ろう を 閉 う を思 店 時 間 0

間 窺 空 が 見える う な 内 0 を思 にお て、 僕 客と ま る 辺 0 \mathcal{O} 仕 り た 方 を 席 確 てお が 日 認 出 空く です 来た時 度 出 が \mathcal{O} 後 を伺 て、 か 0 らま にま て、 中 ウ 1 Z 見え た なが 客席 た行 1 入 るポ きま らウ ドウ って、 カン 5 厨 ジ \mathcal{O} 口 た。 房 厨 ウ シ 房 か 日 \mathcal{O} 口 中を見 営業 厨 7 を 房

で コ 人だ ツ ホ た。 **つ** た 服 り、 担 を着た人が 当 \mathcal{O} 年 配 12 \mathcal{O} 料 料 方 理を出 理 だ を受け 9 た り に 渡 · 来る す 中 る \mathcal{O} 々 だけ 確 力 認 ウ れ 出 来ま ٢, せ 女 に \mathcal{O} W

7 ツ が でも何 ら奥か だろうと思 ようと思 文字まり 度 ら出 目 で 1 カン ま は確 って てきた若 認 た。 休 ま 出 憩 来 た 1 閉 な 男 る 店 か \mathcal{O} に 時 0 た が る です 夜 て、 カン コ が 時 胸 ツ に外 \mathcal{O} ネ き 帽 で を 0 待 とあ 0

 \mathcal{O} 店 たち 後 が で 閉店 を 出 7 き け 時 ま ま 間 に待 た。 た。 0 そ 7 11 \mathcal{O} る 中 ٢, に昼 間 通 確 用 認 か 5 男 従業 性 員 が

は 田 そ 原 方 ま 面 ま \mathcal{O} 地 急 行 下道を歩 に乗 0 V 7 新 7 百 小 合 田 ケ 急 丘 線 ま \mathcal{O} で 乗 行き、 り

な そ つ 駅 てい 周 ま 駅 进 停車に乗 は 都心 た。 カン 川さん ら離 ŋ 換 え れ は た寂 て そ 次 \mathcal{O} \mathcal{O} 中を急ぎ足に ** \ 感じ 生 駅 \mathcal{O} で 降 す る り 歩 住 ま 宅 街 に 1

柳 う しよう、 僕 っていったア はここまでき と書 と思 てあ 9 てい て った た でほ 郵便受けを見た だけ が 柳 っとしまし れど、 اال さん じ 十分くら 5 た。 Þ な ちや か い 歩 0 いて らど

来 な け 新 \mathcal{O} て られ で柳 宿 川さん カン 川さん ら三 な 1 かと思 十 \mathcal{O} 動 · 分く 向を パ ま 探 る 1 た。 した。 \mathcal{O} のは大変だなと思 部屋 これ に、 か 盗聴器だけでも仕 5 毎 いま 日ここま した。

室内 ツキ 5 僕 は計 田急線 の前 古 画を立 りまし セ に張 に 乗る り込 プ た。 を使 てて \mathcal{O} 鍵 λ \mathcal{O} だっ を確 で、 0 休み て、 た 認 柳 何とか \mathcal{O} 川さんが部屋を出て柿生駅か \mathcal{O} してから、 自に で、 開け ネッ 朝 か また ることが } 5 通 柳 川さん ア 販 で買 出来 ったピ \mathcal{O} 7 T 戻

7 て、 男性 整理 整頓され \mathcal{O} 一人暮ら 7 1 まし とは た。 思え な 1 < 5 1 綺 麗 12

に て盗 た は盗聴 灯 デ 聴 用 闬 \mathcal{O} 用 が 用意 ス の椅 あ 7 ホ る した 画 を 繋 13 面 源 側を下 乗 が 7 11 繋が で、 って、 充電 って ホ ンを 天井 て置 る か 仕 0 ぱな プ 5 掛 ラ ておきま け グを二 る が \mathcal{O} 0 状 股 11

た。

に見られ で鍵 が を閉 た \mathcal{O} 終 らどう ところだ 8 0 7 お しようとドキド 2 カン な 出 ければ る \mathcal{O} で助 な か F キ りま ア な を しましたが 閉 \ \ た。 と思 8 7 ま 0 た 結 誰 カン 7

外から入ってきた若 کے ただ、 しま した。 終わ 0 て ア 1 感じ \mathcal{O} \mathcal{O} 敷地を出ようとし 女 \mathcal{O} 子 と出 くわ して、 た 時 丰

を掛 かな 置 F 関係 T いきました。 見 の前 けられたら大変だと思 から、 で、 たらそ へ行き、 顔を覚えられ 僕が柳 \mathcal{O} ブザーを押し 川さん は 僕 たらどう と入 \mathcal{O} 0 て、 部屋を訪 違 ています。 そそくさと急 しようと思 11 柳 ねていた Ш すれ違 ざん 11 1 \mathcal{O} また 部 で は 0 歩 た 明 位 声 5 しい

なる る でも、 \mathcal{O} かも かもと思い もし しれな カン ま · と 思 たらそ た。 ` \mathcal{O} 貴方と 子 は 柳 川さん \mathcal{O} 仲 を引き裂くネ と付 き合 0 7 11

夜 夜から僕 時過ぎにな 風呂に は 柳 入 川さん ると、 0 た り、 ド \mathcal{O} ア 部 小さくテ を開 屋 \mathcal{O} け 盗 る音が 聴 ピ を始 \mathcal{O} 音 めま て、 が 聞 こえ 帰 た 0

同 時 貴 方 貴方 来ま 電 لح 柳 話 を \mathcal{O} \prod さん 掛 部 け 屋 る が \mathcal{O} 喋る会話を 力 メラ 柳 映 \prod 像 さ も 見 両 λ 方 \mathcal{O} 部 \mathcal{O} 盗 屋 1 聴器 ま で 携 帯 か 5 が 聴 鳴 方 0

屋 さんは になって再 貴方と でも貴方 いうこと 映像を見ても、 誰 柳 [と喋 غ ΪÌ が \mathcal{O} 手 さ 会話 取 7 を終 いる さん 貴方は る 様 え んだろう に り \mathcal{O} 携 て電話 伝 とうに寝てしま 帯 わ が 9 を思 鳴 を切 てき 互 りました。 1 った て、 に いました。 お ってい 後 地 互. に、 獄 1) 貴方の を好きだ で 深夜遅 した。 部

付き合っ チ って、 どうも 僕は聞 と 相手は女 呼 11 る人の様な き入 りま る様 人で、 した。 です。 感じでした。 柳川さんは相手のことを 言葉 感じ ょ **~しきたきたと** からすると、 ユ

そん 内容からすると、 力 イを出 柳 な雰囲 川さん のに、 気 は 相手 付き合 を感じ 1 たの · の 方 柳 だ。 がなかな 川さん的には っている人が と思 た。 った か 納得し もう別れた \mathcal{O} ですが、 な てくれ が ら貴方に 話 な 1 と思 1 様 な 0 日 る ツ

を仕掛 たなと。 僕 そういえば ことを思 けた時 に、 1 何 柳 帰る 川さん カ しま 寂 じた。 時に入り口 そうな、 \mathcal{O} ア 可 愛 バ ですれ 思 1 感じの子だ に 忍 違っ めた様 び 込 た若 つ た け 女 \mathcal{O}

に捨てら 貴方にこ 出 れ 来 したらこのまま僕は ふると思 る様 のことを な感じ 1 ま 知 らせれ 12 た。 して やりた 別れ ば、 何 ŧ 方とし 今回もまた **,** \ なくても、 · と 思 7 は 11 貴 ま 別 方 柳 させ 川さん た が 残

発覚 合 は ろ **ي** 局 た け あ 時 る シ メシ に貴 でも \mathcal{O} カン 方が 別 思 受け とも した る ま 思 5 が シ 11 た。 そ ま 出 日 来 ツ \mathcal{O} た。 ずに貴方 まま二股 は そう ŧ, っと大きく を捨 な で れ 両 ば 方 そ لح る 付 れ が き

と思 ね。 気な お カン 5 感 僕 の頃 てか 0 は 5 いまし 部屋で ょ O \mathcal{O} 貴方 曲 しよ ズ を流 K た。 は柳 カン け るミ 川さん もう・ て、 ンとどん底へ 少し 楽 スター とラブラブな 泳 そう が チ 突き落っ ル 12 せ て倖 ド П ずさん せを味 空気 として \mathcal{O} 音楽 12 で やろう、 合 1 な わ ま 2 せ て た 陽

絶 対 柳 別れ で た。 た < が別 な れ < た 7 1 柳 と思 Ш っ さ ん 0 \mathcal{T} は泣き 11 る 彼女 0 は か れ ` 柳 7 川さん 1 る様 な

殺 7 カン カュ で ことも言 聴 た 「まだまだ する た れ に Ш 7 貴方の から さ 相 کے 1 کے 手か る わ 1) だ 7 れ کے が 2 ŧ 5 楽 ろう から 仕 7 柳 ことは言 7 ま 事 困 1 る さん と思 る 他 ま が 0 だ 人をなだ 7 分らな 好きな لح わな ね わ \mathcal{O} 0 < 7 が 声 0 11 1 「ま あ は 7 方 8 気 る カン が だ が そ ら貴方 5 の毒 7 か 付 5 出 λ さ合 4 な る なこと た کے と新 月 と思 様 た 感じさえ + な か 11 0 にごま てな 感 宿 カン 日 0 11 7 で会え じで ま わ \mathcal{O} 4 る る ま カ た す。 自 で

僕 は を 貴 合 日 せ は 柳 僕 きま 新 ||さ た を確 が \mathcal{O} 西 認 わ \mathcal{O} 0 地 て、 7 下 か ちょ 5 口 新 タ 宿 0 کے IJ ^ 間 向 隔 でし カン を 開 た け ね

は 長 に たね。 みんな 入る · 地 下 \mathcal{O} -道をま 森みた 力 か にな と思 ツ プ ル いな る っすぐ歩 0 が て いたら、 座 中に通路があ だろうと、 2 てイ いて、 そのまま都庁 チ F ヤ 中央公園 キド って、 チャ キ に 所 ま Z 方 のベンチ 0 1 ま へと続 ていきま す。 お で

n せられたことを思 な 僕 は前 · と 思 \mathcal{O} 目黒 11 嫌な気持ちにな で貴方が常田さ 出 して、 また見せられ 0 んとキ てきま ス ちゃう た。 てる のを か ŧ 見

身体 で内 さんはうつ 貴方と柳 . 容 ま を近 僕 で は づけることもしません。 は聞 離 む ĴΪ さんは二 れ き取 たところに立 ていて、 れな 人で くて、 貴方との べ 0 7 チ کے 何 間 てももど 座 た カン に は 喋 0 た 隙間があ 9 け 声が てる カ ħ 小さい みた للخ か って 柳 だ \mathcal{O}

うに貴方 て目元を拭 そうし 柳 ĴΪ `さ に 7 謝 はまだうつむ るうちに貴方が 0 7 いる 7 いる感じ から、 です。 泣 11 たま いバ て ツ ま グ 1 る か 5 何 \mathcal{O} カン カン ノヽ なと思 申 力 チ 訳 を出 なさそ いま

しま しま 0 た。 があ そ \mathcal{O} 後柳 貴 方 が Ш さ そ 振 り \mathcal{O} も立ち 返って 後貴· 方が 上が <u>\(\) \(\) \(\) \(\)</u> \mathcal{O} とり 5 0 Ĺ 7 が で __ 緒 帰 9 に 行こ ます き

から」 みた 1 なことを言 0 た \mathcal{O} が聞こえま た

どんどん歩 そのまま 柳川さんは立ち尽くし いて行 ってしま いま した。 7 貴方だる け が 駅 方

待 λ \mathcal{O} てなだ 様子と柳川さん 0 ちや てい T たらし 話 めていました。 んともうお を トにはあ L た λ \mathcal{O} 部 だ 別 柳 \mathcal{O} ろう れ 川さん 屋 ユ ッチ だ の音を聴 لح 0 は帰 ンと呼ば 思 て 11 1 ` V ってくると「大丈夫だ 0 てきた てみま 僕 れ は 家 7 カン 11 \sim た。 5 た女の子 帰 0 柳 さ が

1 · 電 貴方は ま た て、 ね。 よく電話 酷 い目に遭 してい る ったことを泣きながら説 専門学校の 友達 \mathcal{O} 1 ツ 明して コ さん

にきた と違うな 分のことは遊 いうこと が 貴 実は 方 カン が でし 前 と思 5 لح ツ \mathcal{O} たが、 C1 コ 彼女と二 11 さん まし 相手とし って自 た。 それ に話 股 分が カン を は 思わ 僕 捨 掛 7 てら \mathcal{O} け た内 見 れ 7 ていない 解 れた。 て、 容によると、 からすると、 それ 結 カュ 0 局最初から自 たんだ。 がもう ちょ 柳 限 X 0

ま を忘れら つも す。 柳川さん りで う 前 れず 終 \mathcal{O} た は わ 彼 女 \mathcal{O} 本当に貴方の 0 7 \mathcal{O} 柳 ユ ユッ ッチンさんとは、 川さんに付きまとっ チ 柳 ンさ 川さんとしては ことが好きだ λ の方は 貴方と出 7 柳 0 完全に た Ш さん W 会 だ つ \mathcal{O} 別 いう た 思 \sum_{i} た 時

印象です。

ばならな はどうにもならなくなって、 いユ ッチン・ 9 の前 て脅迫してい さん いと思 柳 Ш は さん 別れ 0 た た が \mathcal{O} る \mathcal{O} 電 なら死んでやる、 でしょう。 かもしれません。 で 話 止むなく貴方と別れ 7 た会話 みた それ \mathcal{O} で柳 様 1 な 子 ことを だと なけ Ш さん n

ね。 が 7 貴 ダイガメでよ 赤玉パ 方 ま け は بُ た そ れ ンチとか紙 ね 阿佐 カン 貴方は く買ってい 5 ケ谷に住 何 日 お カン ツク 部 まし んでいた頃は 屋 夜 に入 中ま でよく赤 たね。 ったやつとか、安いく赤ワインを飲みま で ワ 1 商店街 を飲 \mathcal{O} 泣 物 パ す

思 様 たという訳 で 今回の いをさせられ 何 ケースは、 カン ス でもなく ッキリしな たということでした。 柳川さんの 貴方が捨てられた 7 気分でした。 の事情 の為 今回も僕が に \mathcal{O} 貴方 は 不 可 が 何 悲 を 力 LV \mathcal{O}

たが に 泣 貴 方は 柳 川さんも後で一 柳川さんに騙され る声 が聞こえてきま 人の時に、 たと思 じた。 って恨ん 部屋でむせぶみた で 11 る 様 で 11

そん が 来 2 僕 のに、 は柳 な物 たことさえ貴方に 思 川さん に は ま 柳川さんは全く相手にせずに、 惑 わ に貴方の さ ず ** \ た貴方 ** \ 悪 口を書 ませんでした。 を信じ いた . メ 1 それ 好きだ そん ルを何· は な きっと、 った 度 メ ŧ, 送

貴 方 \mathcal{O} 部屋 \mathcal{O} 隠 力 メラ \mathcal{O} 映像 で、 貴方が 泣 1 7

たら、 いる姿を見 した。 こんな風に人間を見て て いたら、 きっ と神様 ** る لح \mathcal{O} いうも かもしれな \mathcal{O} が 1 1 لح

もう一度しっかりと目的を認識 な気分にな 聞 貴方に復讐して かせました。 ってきていて、 B りた 1 違うじゃない \mathcal{O} に、 しなけれ な W だ かと思 ば カン 守護霊 と自分に言 \ \ ました。 4

僕と貴方が 1 ま ま 僕 こしたが す。 は貴 方 が 何処で面識があったの 僕は貴方のことを生涯忘れ 僕 \mathcal{O} ことを完全に忘 かを打ち明けた れ てし ません。 ま 0 7 1 いと思 ここで るとい

は僕 \mathcal{O} 2 た時に、 僕 時 年くらい 僕 は二〇 は 方が先輩 三二歳でした。 ア <u></u>五 緒にア 年に貴方が二十歳 でした。 ルバイトをしていた者です。そこで トしていたモア 名 前 を須賀健二と で専門学校 バ ーガー \ \ います。 の中野店で の二年生だ

お 貴 トを始 で働 が 年間 新 人としてアル める前は、 て三年目だった 自宅に引き籠も 僕は大学を出 バ \mathcal{O} 1 ですが、 って 12 1 9 てから三十歳に てきた ま あの した。 お 時 店 でア 僕 なる は ル

て、 就職 大学を出てい 大学を卒業 したくても出 た た 時 来な のだけれど、 期 はちょうど就 い人が多か 就職試 った 職 λ 氷 験を受けても です。 河 期と 僕は

規社員という形 か内定が貰え 二ヶ月で辞 りま した。 しまいま て、 結局小さな印刷会社に だ した。 けど営業 \mathcal{O} 仕 事 が 合わ 非 正

こでモア に住 ま 住 引き籠も とかしなければという切羽詰まった気持ちになって、 自分でもこのままでい く様になったんです。 いました。 んでいます。 僕の家は東小金井にあ んでいて大好きだったお祖母ちゃんが亡くなって、 ったまま それが ガーのアル 就職 悲しい 八年経 に惨敗してからずっと自分 バイトに応募して、 \mathcal{O} 0 のと、 て、 かなと焦っていた時に、 って三十歳が近くな 今も両親と一 もう本当に自分をなん 緒 中野店で働 \mathcal{O} ってきて にそこに 部屋に 近所 そ

めたというよ だからあ 、まし た。 の店で働 りは、 社会に出る為 いていたのは、 \mathcal{O} IJ 何 カ ノヽ 目的 ピ IJ があ \mathcal{O} 様に考え って始

人りました。 ガ あ まり でも接客ではなく、 初対面 の人と話をする 裏方の \mathcal{O} 調 は 苦手な 理場 の方を希望して \mathcal{O} で、 モア

手順とか、 充実感もあ 仕事を始めて最初のうちは だんだん仕事がこなせる様になって PCを買えた 覚えることが って、なにより一年経 は嬉 ****\ 0 ぱ メ = つた時 ユ 大 種 貯金が 類とか ると楽 変だったけれ 理

働き始めて三年目に、 貴方が新 人 \mathcal{O} ア ル バ 1

方 店 様 だ 気 持 け 口 ちは 愛 بخ ヨン てきま 1 人に 基本 で たね 分 は接客の 女 ります。 の子は売 最 貴方 初 方 は り に は 口 場担当だ 調 場 理 0 て貰 場 で を は いた 希 な 望 何 1 力 と 7 ウ り貴

ま は 干 も貴方 した。 僕 は調 絶対 に \mathcal{O} テ 理場から、 出 様な 娘 ビアニ 来な が 可愛 大好きだ いことだと思 メの 1 カウンター ハとリア キ 0 たけ ヤラク ル れ 0 に 7 ٢, タ に $\frac{1}{\sqrt{1}}$ いま お 0 生身 貴 話 とか する 方 た \mathcal{O} \mathcal{O} 姿を 女 ア の子 λ てこと ドル 見 7 そ

け نخ た。 ウン 遠く タ \mathcal{O} 世界に نح 調 理場とは 11 る 人を見て ほん \mathcal{O} 少しし る 様 な気が カン 離 れ て な ま 1

貴方 海 緒に それ は最 0 調 が 調 初 理場をや 貴方 行くとか か 理場を担 ら調 が 0 理場を希望してい 入 当することにな 0 いた学生の て三ヶ月 って、ポジ ア 5 りま た 日 \mathcal{O} 経 で、 が 0 た 空 ね ポ 時 11 が た時 ジ 夏休 僕 日 É

れ 以は店長 世 者 だ から貴方 け とは思え n に仕 な 貴 事 方を見る 1 気持ち のことを教え と妖精 で した。 る様 \mathcal{O} 様 に で、 と指示 な N だ さ

でも貴 間 頃 方 ま す は早 ら貴方は てきて、 0 7 可 事を覚え さなことでも 将 来 1 声 は た 地元 で答 1 · と 思 え \mathcal{O} て 教 新 え 潟 0 る で自 7 れ ま ح ح 1 た 分 あ カン た \mathcal{O} お店 りが 5 ね を 何

持 う 1 思 7 ま ま さな た ね。 な ス \vdash ん て健気 ラ ン でも な 夢を 11 1 持 カ 5 0 開 7 きた 11 る ん 1 だろ

思 話 る \mathcal{O} 僕 夢 な ら見 世界 だと思 る と答え た 貴 何 <u>~</u> 行 ょ 方は 1 て ŋ そ 僕 様 な気持つ れ \mathcal{O} \mathcal{O} 干 る。 目 日から僕は = \mathcal{O} ちに 前 ああ ン で グ 動 な 娘 \mathcal{L} 0 \mathcal{O} 仕 誰 て 事 な 1 が よ に行く ま リア り、 り ŧ 息 可 کے を \mathcal{O} 11 لح

思 喜 何 1 様 才 ラ な 貴 誰 自 良 ま な 方 ツ 脇 チ を 分 7 は た。 そし 開 思 りも では気 役 き ことがある 日 きた 男子が守 コ 0 0 そして チョイ てそ ٢, 7 口 付 愛 いと思って頑 な 今 \mathcal{O} 1 Ĕ, 笑顔 のに ま なところも ってやらな 0 自 で どん は弾 地道 分 に 貴方は がこん 11 ___ な 張 に働 け 度も る げ あ 小 9 様 全 さなこと れ てる なにも 恋 0 今ま に眩 て、 くア ばな て将 愛 経 来は自 そこ 5 可 1 で 験 生懸命 な 愛 で K 11 が もも 見 11 \mathcal{O} 無 部 11 貴 方 うこ だ 僕 は ス n

ま 思 は 毎 僕 な 日 な ま が 5 2 \mathcal{O} らも、 な な って 事 11 \mathcal{O} 言 中 \mathcal{O} そ いきま こと では λ 貴方 お にも な 話 \mathcal{O} する 気持ちば 0 0 と貴・ 7 こと しま 1 方 そ لخ が か 出 お \mathcal{O} り 来な もう心 が どん り が 苦 للح ま

ちを 僕は たか ま から大丈夫だ 月二三 大丈夫だ ま 貴方 ら三 日真 た。 は自分 日 9 0 たと 月 0 . 貴 実 方 な 家は ら本当 ま 新 に 経 地 潟 たが 元 県 に 源 は 頃 大丈夫 良 大 僕 き か カン は 0 切 大 な 地 0 分離 \mathcal{O} 震 だけ ? が れ 僕 あ と 0 聞 7 気 う 持 き \mathcal{O}

して、 0 から私服に着替える こそ貴方に僕 て そして、 ま 仕事が終わ た。 そ \mathcal{O} 日 \mathcal{O} 思 0 ٢, 仕 ていち早く片 いを伝え 事 裏 が П 終 なけ から わ る 付けを終 れ ま 出たところ ばと思 で ず 0 わ کے 11 ま 思 5 で貴方を せ 11 た 詰 7 制 そ

達 ま した。 に先に行 出 所 にきて てきた貴方に、 貴方は < 9 れまし てて、 一緒に帰ろうとし た。 ちょ کے 覚え 0 9 て、 とお ていますか 僕 話 <u>논</u> ていた がある N ? で T です ちル ょ が 0 \mathcal{O} 友

好き る 貴方 と思 て僕は貴方に のを押さえて う は は 0 けど、 ŧ きよ 途中 る じよ な とん 頑張 5 と カン 葉が 僕はモ こう言 0 カン た お 5 7 途 願 僕 交際 いました 切 ま n \mathcal{O} ます。 思 たね、 て下さい り 娘 を伝えなけ 僕 ŧ, 9 \mathcal{O} は貴方 僕は自 ことは 0 キミ カュ لح え 全 れ 僕 ば り 声 が が れ

消え た。 あ のところへ、 うとする り 得 方 て下さい」とい な は 初 \mathcal{O} 11 で僕は \Diamond です」と 振 7 見 り向きもせずに歩 る って、 ねえ待 物 \ \ いま を目 こって」 離れたところで した。 に た کے その 様 ** \ て行 な 1 まま った 顔 を ってしま 5, 待 行 7 ってる友達 0 貴方は 7 嫌 ま ま お す

ま した。 僕はそ カン 全部 わ \mathcal{O} まま立 くわ が 無くな < 0 てい て貴 つ て しま 方 た世界が が 歩 9 た 1 様な感 __ 7 挙に 行 0 暗転 Ü た 方を で た。 たと 眺 8 7

絶 Ż 対 て 下さ に嫌だと思 日 か ら僕 と言わ は ま お れ 店 た た に 行 \mathcal{O} け でもう貴方に見られることは なく なりま L た。 僕 は 消

は \mathcal{O} 貴方 と同じ この手 僕 紙 の最 5 \mathcal{O} 心を殺され 初 貴方を の方で僕 僧 た から W は で です。 \ \ 貴方 ると書きました。 \mathcal{O} ことを愛 して そ た れ

死 も立ち直 刑 深 ŧ さに に な る れ と思 な 0 \mathcal{O} て裁 傷 11 くら ****\ の深さを測 ます。 く法律がある が人 \mathcal{O} 心を傷 る ロメー のだとしたら、こんなに つけた ター 貴方は、 が あ 0 7 きっ 傷

問題 せん。 とは違 具体的 ラ 律 0 に骨が折れた らどん では罰 スと してく に受けた とか 騒 れが な 人から 傷を数値 で いる 11 刺 3 今は 傷 け れ れど、 で表すことは 7 9 け これだけ Ш. 5 が 法 れ 出 律 ても た が 人権 出来 罰 カン 1 か ま \mathcal{O}

なら、 自 分 で戦う カン あ り ま せ

だ う とが許され 生きてい 手 生きて行 から僕 ま ても、 と思っ 0 生きる たりするも は た 言わ は カン け 時 な とし \mathcal{O} なければならな 気力を失っ 7 人生を奪 です。 れた方はそれ ****\ \mathcal{O} のです。 い傷 わ でしょうか。 自分では てしまうほどの れ てしまっ 1 では済 でも、 て、 そう のです。 を気 た復讐を、 みません。 その傷を一生背負 気づかなか いいはずはあ 付 こんな理不尽なこ 酷 1 か ことを言って な 貴方に施 その言葉で ったと言わ まま りません 2 7

れ は生物 社会と と生物 法律がどうとか の、生存をかけ いう た戦 間 題では 11 で す。 な 1) んです。

ません。 ら戦 は は な な 可愛 可愛 いということでしょうか いは 1 です。 女の子を皆殺しにしてやることしか生きる方 女の子にとっては 何 のか くならな h 社会に完全な平等などと \mathcal{O} と綺麗ごとを のです。 0 ブサ それならば メン いってみても、 いうも ブサメンとし は生きる権 \mathcal{O} はあ 世界 利 法 カン V) が

たという気持ちを、 せず、 貴方は の為 て そ の言葉 無邪気 僕に「消えて」 に らうよ 貴方 で僕が一生を台無 な気持ちで言った り 他あ にも どうしても貴方に伝えた とい 僕 りま と同 いま せ じ様 λ した。 のだろうと思 に、 にする程傷 きっ 地 獄 لح の苦 11 います。 深 \mathcal{O} 0 です。 く考え て

日 ら僕 \mathcal{O} 人生は 決まりま た。 11 わ ば あ \mathcal{O} 日 が

ら、 ることでした。 その相 の計 画 手か は 5 貴方が心から好きにな 地 獄 \bigcirc 様に捨てられる様に仕 った 相 手 組 が 出来た

とが僕 たのです。 そのことだけを生 の人生な 貴方は僕の生涯です。 ので 涯 \mathcal{O} 目的 として生きて 貴方に復讐を果たすこ 1 こうと決

絶対的な絶望だけ ました。 る くなりま 価値もな \mathcal{O} 日 心 カュ した。 ら僕 11 中は息苦しい のだと思いました。 は があって、 貴方に「 干 ア 消えて」と言 ガ 灰色に塗り潰されていました。 僕という人間には息をして 中 -野店に わ 行 れたので消え

たけ 行かなくなった後、お店の店長から何度か電話 れど、 出ずに いたらそのまま掛か ってこなく が りま あ 0

る リをして出掛けて 両親 ので黙って に は ア ル いました。そして週に -トを辞 いました。 8 たななん 何 7 日 ****\ う カュ とまた は仕事に行 心 配 す

しきで一人で遊んだ でもどうした 新宿や渋谷で街を歩 何 くて、自 日か経 トをしていたはずの日中 5 いいの が鬱にな りもしました。 かも分らなくて、 ついたり、 また仕事に戻りた ってい ある ることも でも楽し \mathcal{O} 時 間 日は浅草 お店に行かな を、 分 い気持ちは いことなん りま 映 - の花や 画

も気 6 あ だ な け な لخ と思 0 7 中 で 1 ŧ 野 今更戻 駅 0 ま で 行 野 る 店 0 の前 7 t ま で カン 従 きま 業 1 員 لح 思 た . 見ら 0 た

が れル \mathcal{O} 動 ٢, か 店 奥に 貴 力 ウン 方 り が る 力 タ ウ カン は時 る らは タ \mathcal{O} \mathcal{O} カ 奥 Þ どう 見 \mathcal{O} 椅 え 子 <u>\</u> 厨 ま 房 とテー か 0 ŧ した。 で、 てる 分 白 りません ブ でもど コ 見えな ツク 並 で 服 が を着た た ど カン る \mathcal{O} 0 た け な

閉店 お で 店 は 悔 を 時 何 閉 間 店 に 7 時 近 で 間 時 ま 間 な フ 一戻ろう リを で を潰さな 0 中野駅 たらまた して カン けれ と思 \mathcal{O} 1) 近く お る以上、 ば 店 ったけど、 ならな をウ \mathcal{O} 近 < お 口 店 に ウ 11 戻 口 \mathcal{O} 両 親 閉 0 そ 店 7 て に きま 時 7 \mathcal{O} ア 蕳 て、 ま ま

を話 方と 通 した。 用 店 僕 営 7 僕 カ 仲 業 は は 良 5 1 違う 従業員 離 < る が 終 れ \mathcal{O} 世界 た カン 7 わ キ ところ が 9 た女 出 7 7 ツ 子 る き始 丰 か 1 らそ 様 ヤ \mathcal{O} 9 と笑 で T 8 ŧ, っと見 ル 帰 た。 7) 0 . 声を そ 7 7 \vdash \mathcal{O} あ 11 \mathcal{O} 中 た げ ま 子 に 時 が どう 間 て楽 た 出 12 やら が な てきま そう る کے 何

出 る 球 7 \mathcal{O} \mathcal{O} を 帽 お 日 子 見 店 ŧ, を目 早 7 \mathcal{O} 7 通 番 深 用 ま \mathcal{O} 頃 被 た。 が に 見 出 0 え 掛 ₽ てマスク し見 る け 7 ころ 1 0 た を カュ る で \mathcal{O} 従 と کے 業員 11 同 ま け な 時 が 出 間 1 لح 思 家を

六時からる 朝 店を見ていました。 ました。 出勤してくる夕方になったら来てみようと思 それから夕方 \mathcal{O} 七時に、 でもずっと立 の勤務な 才 調理場 プン の五時にまた来て、 ので、 して、 生稲 貴方は専門学校が終わ って見て さんも 駅 から歩 モーニン いる のも疲 いてくる また同じ場所からお のを待 9 が始 きま てからの また貴方 いました。 0 りま 7

通用口に駆け込んで 六時 数秒 \mathcal{O} 間 ギ でした。 リギリに な いきました。 9 \mathcal{T} 早歩きで貴方は 貴方の姿を見た 歩 7) てきて のはほ

営業していました。 お 店は も通 り に、 僕が いなくても全く変わ りな

、ると、 日 は 駅ま 夜また閉店時間に来て、 で後をつけ て歩いて、 貴方が 貴方 通 \mathcal{O} 用 乗 る \Box か 5

緒に乗りました。

そし る部屋 貴方は て僕 は貴方 街 中 がどれな 野駅 途中から折れ の住 から 中央線 かも確かめることが出来まし でい るアパ で二つ目の て住宅地を歩 冏 佐 1 貴方の て行きました。 ケ た。 住 で降

日 は 谷ま て家を出ました。 朝六時に起きて、 では二十分くら 僕 親には早番 の家 でし の最寄 た \mathcal{O} 時間 ŋ が早 東

き止 めた貴方のアパー の前 で隠れ 7 ると、

佐 へ行きま 過ぎに した。 部 屋か ら出 てきて 商 店 街 を通 0 7 阳

カン った。 密集 勤時 間 している で人が多くて、 のですぐ近くに 見失 いそうだ いても死 9 角に入れ た け بخ つりやす 逆 12

から降りると凄 \mathcal{O} そして電車に が大変でし た。 乗 い 早 0 足で歩く て新宿まで行きまし ので、 見失わず た。 に 貴 方 9 は 電 車

の道 ルミネの に入 ホ 路 **つ** 沿 ムか 前を通 て行きま ら西 に建って П って大通りに沿って歩い した。 いる、 地 下 -道を歩 福 田 調 1 理師 専 地 7 門学校のあ に 1 き、 出 そ \mathcal{O} 5 る 先 F は

に行 あ 授業 \mathcal{O} 9 それは二 た 日から僕は、 くところ、 \mathcal{O} 時 か 間、 〇〇五年 貴方 に記 そ バ の住 の他生活パター 貴方の行動を監視 録 の十月二八 先 していきました。 で \sim の道順、 るところか 日 ン等、 金 曜 毎 7 日 日 5 分 何月何日に何 \mathcal{O} \mathcal{O} の通学、 買 こと 0 たことを全 い物、 で 遊 学 た 校 てバ が

う、 って考え でも僕はふと、 何が 僕にここま てみまし 僕 た で は ひとり \mathcal{O} ことをさせ で一体何をし ているんだろう、 7 ****\ る んだろ

バイト先 消えて」 それは、 る。 のお店は、 最初は不思議 僕 は 殺され 何 姿を も無 消 た カュ だ 人間 0 0 た 様 ま たか らです。 様 に た。それ 変わ に傷 りな つけら な 僕 は \mathcal{O} に、 毎 貴方に 日営 T

が 何 な な だ な ろう 貴方 0 た お は 何 店 t で T -思議だ ル カン 0 2 毎 7 5 日学校 1 です。 る \sim 行 れ き、 僕

途中 5 電車に乗 た学校が終わ た。 そん 掛 貴 中 なこ 野店 方 0 7 くる とを考え が 7 冏 商 る へ行き閉店ま 時 貴 佐 店街 間 方を出 ケ に出 で買 谷まで帰 ながら、 回えて、 迎え い物をし で待って て、 毎 ってくる。 日 た 朝 T 一緒に新宿 りする ル いて、 は貴方のア アパ イトがあ 貴方と一緒 \mathcal{O} も見て へ行き、 1 る時 へ帰 ま る は ま カン

7 9 貴方が いる て 観た のを見てい りし バ 1 てい 1 \mathcal{O} たり、 ま 休 4 た。 \mathcal{O} ま 日 た 12 は、 映画館へ入 貴方が お 2 たら一 友 達と 緒 お に 茶 入し

貴方 で \mathcal{O} 何 様 ともう でしょうか に 月 処 か T 兀 遊 日 0 イト 月 に 曜 多分よく いく様 へは向 日 0 貴方は学校が 電話で話 カン でした。 わず、 専 男子が三人で女子 終 門 学 1 わ 校 9 た \mathcal{O} 友 後 全と五 コ は

受付 に な 申 ているビルへ 7 行くと新宿 込ん と入 貴方 駅 西 た 0 \Box 5 7 に ば あ いきまし 店員 る \mathcal{O} ___ た。 人に 棟全部が 案内 されている男子が 力 ラ 才

貴 方 たち 降 りた様 が 乗 でした。 った エレ 男 ベ の子が三人 タ の表示 1 た を \mathcal{O} 見 で気に 7 1 た なっ ら、

貫い ました。 僕も 一人でカラ 僕が案内された オケを申 \mathcal{O} は 込 四階の ん で、 部屋に 小さな 部 案 屋 内 7

きま て、 にきた後、 屋に した 明か 入 りが 部屋を出 0 点 てド 1 てい IJ て貴方たちが 、る部屋 ク を 注 文し の窓をひとつずつ いると思う三階 従業員 \mathcal{O} 覗 降 7 11 V) け

きま たりまで 中 した。 Þ 貴方たちを見 くと、 1 つけ 1 \mathcal{O} ることが ドアが 急に開 出来ず に 1 通 て貴 路 方 \mathcal{O} 突き当 が 出

貴方 すいませ た。 T の腕にちょ ッと思っ ん」とい て目 っとぶつか が って友達が 合 った 時 2 てしま に身体 1 る 部屋 が 1 、ました。 よろ 一へと入 け って てし 貴方は *(*) ま きま 1

つか ス り僕 時 も変装用 て 反応 顔 を見た でした。 カン った、 に のに、 野球 それ \mathcal{O} 僕 帽 子は どころか貴方は今 <u>~</u> の反応 被 0 は 7 全く 1 た け 何 確 n \mathcal{O} 認識 かに ど、 7

苦し んだ。 僕は消えて んで 目 る 眩が起きて意 \mathcal{O} に。 いな 貴方は僕 識 1 が朦朧 \mathcal{O} 今ここに 顔 を見て 7 1 も覚え くる様 て、 で 7 ŧ した。 な Ł

た。 7 は 何 ぞき窓 度 も貴方たちが からチラチラと中 歌 0 7 ****\ る 様 部 子を窺 屋 の前 を通 0 0 7

もう僕が 須賀健二であるということが バ V 7

7 2 いま 7 で 7 も僕 分 ま した。 タ 0 ン に てく は バ リン 全く関係なく、 れ کے な 1 うよ で いんだ。 リズムを取っ りも、 という 貴方たちは 僕 が X J X J て、 気持ちに に 楽 賑 1 ŧ B ること かに 盛 な り上が り ýました。 歌を

たち 間 ただ救 とべ すぎな ない いだっ タすることなく、見るから た と 11 \mathcal{O} う距 は 貴方は 離 感だと思 一緒 12 0 た 1 に普通 た三 ことく 人 5 \mathcal{O} \mathcal{O} 学校 男 \mathcal{O}

をあ 見 ちこちに \mathcal{O} 貴 張る為に 11 方 \mathcal{O} で防 \sim 貼 \mathcal{O} 寒着 る は 監 様 外 視 をたくさん着込み、 に に は 1 + なけ ま 月 た。 れ \mathcal{O} ば 下 ならな 靴 旬 に \mathcal{O} 中 な 使い に 0 時 Ł 7 仕 捨 間 ŧ, て 込 が 続 殆 力 みま きま どだ 口

を取 僕 た。 僕は やることはこれ り戻す為 僕がこの 1 体 き 何 状 に を 0 と僕 は、 況 カ 7 کے 貴方 ら救 しか 同 る に な わ W 様 同 れ だろう、 1) じ苦 に傷 る為 と思 には、 0 けてや みを味 た。 と思 僕 そ いな る。 合わ れ \mathcal{O} 殺 は が された 5 復 せること 讐 心 £)

を訪 7 会社 · 月頃 7 力 て、 十月十 ツ \mathcal{O} から貴方 説 コ 明 会 日 日 参 思 は 就 加 は お 職 1 ま しま 茶 神 先 田 を \mathcal{O} にあ 水 決 た に \otimes あ る ね るフラ る 為 に IJ 就 ク ス ル } 職 ス 料 活 ラ 動 理 用 を チ \mathcal{O} 会 エ \mathcal{O} 社 ス 8

きま にな 少 な した る タ 況 9 ね ロウ た だ は まだ \mathcal{O} 0 たと思うけ でしょうか 就 ストランシステム 職 氷 河 Ę, 期 + が 続 一月五日には 飲食業界 11 \mathcal{O} 説 では 明 て、 会に 就 比 参加 職 較 す 的 的 3 \searrow は لح が

庶民 舗 で 0 た 数 貴方が検討 的 のに £ _ た な 対して、 番多くて、 フ アミレスに近 7 タ いた三 ロウ 他の二社が割と高級 0 レ 1 \mathcal{O} ス コ ンセプ トラン 会社 \mathcal{O} 1 はどちらか 中 でや で な は コ 0 ン 7 直営 と セ 1 る会社 ** 店 プ \mathcal{O}

営 7 かと思 いたか 貴 ことに 方は ている 5 方向 って 将 食堂 来地元 \mathcal{E} いたけ 転換 9 「たまや」みたい と高 した に ħ 帰 ٢, \mathcal{O} 級 0 かな、 志 7 今貴方 向 レ ス で本格的 と思 1 な庶民 ラン \mathcal{O} ご両親 1 ま を 12 的 料 Þ た。 理を追 な りた が 新 お 潟 店 1 求 を 市 する 目 で 経 指 0

理 僕 尽 7 カン 僕 そ で 将 に 恨 頃自 来 は フリを \Diamond に 希望 · 向 1 t こと カン 続 \mathcal{O} って進ん 何 け 両 ŧ 親 7 \mathcal{O} 様 な 1 にはまだ カン ました。 に思えました。 で 0 た いる。 け モア れど、 この それ バ 先どう が 貴方は前を ガ 何 な つ 7

方 に書きま そ 年 \mathcal{O} \mathcal{O} 時 L 十二月二 た に . 僕 が ね 八 後を 日 に貴方は新 **つ** け 7 緒 潟 に行 \mathcal{O} 実家 ったことは ^ 帰 省 先 \mathcal{O}

方は年 明 け \mathcal{O} 月 八 日 にこちら <u>~</u> 戻 0 てきて、 学校

は は 日 り せ 5 再開、 λ でし 貴方 た は学校 では 彼氏 を 作 0 7 1 る 跡

け 7 いな る ているとい 何 11 らくて、 た。 \mathcal{O} しんなに り、 かな、 うことにも気付 だから周 貴方は自分で自分の と思 可 愛 11 いましたけど、 ŋ の男の子たちが貴方 が 11 る 1 \mathcal{O} 可 愛ら やつ な 男 1 \mathcal{O} しさに ぱ 子 のだろう、 り た 僕 に 5 気が 好意を持 が 思 声 0 7

先 は 配 \mathcal{O} 専 属先 月 では タ 門 学 ロウレストラ らつ 校 日と二日は まし カュ 調布店に を三月 9 た。 た いきま \mathcal{O} に 出 新宿 卒業 で、 ンで現場 勤 の本社へ して、 したが、 しましたね。 11 ょ いよ のお 兀 出勤 現場 その 仕事 月 カン が 日 僕 5 \mathcal{O} は て、 お は 始 は リク 阿佐 店 まりま 1 三日 ょ ケ ょ 目 たね \mathcal{O} ス

急行 に遠 阿 に乗 佐 ケ 感じ 谷から りました。 でもなか 中央線 新宿からは ったですね。 で 新 宿 \sim 出 十五分ちょ そ \sum_{i} 0 カュ とで、 ら京王線 そんの

阿 ま 佐 カン らも僕 た。 谷の は 西 毎 日貴方 A が出 は 社 盗 聴器と二台 てい \mathcal{O} \mathcal{O} 12 力 0 メ 1 ラ 7 を

を立てま メラ した。 を仕掛ける 実行する前 時 は 発 見さ に一度忍び込んで下 れ な 11 ょ う 12 細 調 心 \mathcal{O} を 計 画

能なん 部屋 最 す 近 Ĺ あ \mathcal{O} 力 る物に違和感な メラ は片手で握れ く紛 るくら れ込ませようと思 1 小さくて高 1 性

渡せる様に ス \mathcal{O} 中に、 しました。 \mathcal{O} 力 カバ メラは玄関 に小さな穴を開け ドアの 上に . あ る てキッチ ブ レ 力 が 見

込んで、 じ物 てお か汚れ具合もよ ふたつ きま を探 した。 して買 貴方の物とすり替えました。 めは部屋にあっ く見て、 ってきて、 た 出来るだけ同 その 白 1 木枠 中 -に盗聴 \mathcal{O} 外 置 じ感じに傷をつ 側 器 き時 にとカ \mathcal{O} 小さな 計 メ ラ 傷 を け 同

くれ に かすことが な 時 計は る りました。 \mathcal{O} 電 で、 源がコ あ 必然的にカメラ 9 ても、 ン セ 大体自分で見やす ントで繋が から ってい も貴方を見やす る い場所に置 Ļ 貴方 が 所 動 7

それ <u>一</u>台 て 才 に追 画 したり、 時等は、 風 力 い炊きの できました な 呂から出 メラと盗 の中までは見 1 ので安心 申 お 画 聴器 風 像をどこかに投稿 し訳あ てきて何も身に 呂が 間 えて 取 で、 して下さ りませ 0 りは六畳 いな 部 屋 いま \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} 和 会話 でも で安心して下さ 室 た とキ りとい と貴 そこで貴方の ね。 11 でウ 勿論 ツ 方 チン うこと 口 \mathcal{O} ウ お 口

てこの 頃僕も、 貴方のことを監視する にも交通費

 \Diamond か ま 事に就 両親 る 11 たことを伝え にもモア کے まし お 7 は ガ 金 た。 と思 t 掛 \mathcal{O} 仕事を 11 2 ア まう 辞 ル バ \Diamond T \mathcal{O} ・トを始 新 何

盗 来 聴 って、 な 事をし 器 けれど、 音声を確 パソコン 7 家 る 方 る 時 論貴方を監視 はず ま 部屋 た。 の様子 0 と二階 を 録 7 \mathcal{O} 僕 画 11 る \mathcal{O} 部 屋 映 像 篭

け 胸 メ け 貴 ドキドキ お 鼓動 風呂 方は はあ ますね。 [を沸 でもあ 夏 しまし の暑 まりしな かしますね りま 1 貴方の た 頃は じた い方だけ 愛 生活 ヤ ワ 朝は六時 1 ħ を盗み見 \mathcal{O} لح F, だけ 同 時 化 12 浴 る 粧 起 に U 水と乳 きて朝 憎 ことは、 て、 みか 冬 液 シ ヤ ŧ 5 は 時 期 毎 る 凄 日 だ

歌 約 専 束 貴 時 7 方は 伎 B 学 とい いま 一緒 校 合 電 町 り う曲 部 話 12 す \mathcal{O} コ 聴 屋に で話 時 ね が コ 11 をする 誘 お友達、 特 好きですね。 ているうちに詳 いる時ミス にこ いも 足音」 あ のは、 例 りま の最 タ ツ した。 コさん 実家 初 僕は全然 星に の彼氏、 しくな チ \mathcal{O} そう ですね、 お 母 な F 知 れ 0 てしま らな 志 さんと、 島君と て七月 5 \mathcal{O} 遊 か 曲 った کے を 1 ま ょ か 新 行 け う と 彩

の後 五 7 月 口 ツ ク \mathcal{O} 五. 月 口 に本当に ラ \mathcal{O} 常 1 1 田 人だ さん کے 0 た \mathcal{O} 柳 کے さ

んとのことがありました。

た。 沢 月 Щ お 店が あ か 5 0 \mathcal{O} て、 あ 辺 ると りは 年 谷 僕 \mathcal{O} \mathcal{O} 三月 から 円 1 *"*う うけれど、 Щ らしぶ。 見ると如 町 にある 貴方 店舗 とか は 何 キラキラし わ \ \ 属 へ移ることに 先 0 印 が 象で たラ お 異 洒落 動 ŧ, ブ ホ で美味 な あ テル り ŋ 0 ま 7 t

って、 今度は阿佐 三月二 四月 に な 六 日 ケ り ___ 日 ま 谷から新 からは た。 調 布 円 宿 店 Щ \mathcal{O} \sim 出 町 従 業員さん て、 \mathcal{O} 店舗へ 山手: 出 線 た 一勤しま 5 で渋谷ま と送 したね 别 でと 会 が

な た 例 僕 調 お じさん 布 店を辞 た 8 調 7 布 ま 店 で貴方 9 \mathcal{O} 村 たこと 永さん \mathcal{O} です。 部 が、 下とし 貴方 7 働 が 異 1)

てき 貴方が異 感 僕 情 が を持 盗 動 聴 同 0 系 な 7 7 いた会 った 列 る \mathcal{O} 円 様 経 験者 話 Щ に は 町 \mathcal{O} 思えな لح 店 感じ へまたア で 7 採 は カュ が用され 9 たけ 貴方 ル バ ń てしま イトに応 ど、 対 そ 1 募 ま 後 別

しょ と貴 う 先輩として慕 か 時 方と お 僕 店 で、 \mathcal{O} \mathcal{O} 目 関 から見 係 貴 0 ては をとや 方 \mathcal{O} 異 ても ても、 動 か 先 村永さん < 1 \sim . う と追 恋愛感情 は は 11 貴方 カン 11 な 4 け た てきた \mathcal{O} か ことを 0 た 村 で

持 0 です 子 0 た カゝ 5 お 店 \mathcal{O} ŧ 何 .も思 ゎ カ

カン 0 て なこと る は 人でした 貴 ある 方 が کر 恋 愛 \mathcal{O} すぐに察知 ことや お 店 で \mathcal{O} 配 間 た 関 り気 係 な 遣

感 て引け 思 でし た。 りの 目を感じ ある人 とか ちよ 田 0 いる 舎 とト で、 \mathcal{O} 様 ロく なまりが 貴方に献 な印 て、 象 あ で 九 身 的 州 0 た。 に仕え て、 \mathcal{O} 方な 何 カン 7 間 る 様 そ

当 \mathcal{O} カ ことを好きで、 「は貴方 ってい 類 い 希 るから、 に会 とも思 に見るお つ いま た頃の僕 でも決 人好し だ いから親見 じた。 して受け入れて貰えな な人な と同じで、 切なフリをしているしかな \mathcal{O} カン 実は心 なとも \mathcal{O} 思 中で貴方の う いことが け 分 本

できる でさえも優 でも は 方では、 無 越感を覚えるというような、 何 1 か応援 だろうな、 僕は 少なくともこの したくなる感じもしていま と思 って いました。 人に 良く は貴方を取 いえば安心 こん 僕

頃は誰 五. 月 あ で ま 九 ま も付 日 り 連絡 に !き合 · 貴 方 た 丰 を を取 ね 買 は二 ってい 5 9 な 四歳 て、 なく 1 様になっていて、 \mathcal{O} V とりで て、 誕生日を迎えま 専門学校 つも の赤 \mathcal{O} コ ツ コさ ビニ

に僕は お 8 でとうを言い まし 直接言うこ

貴方 は 出 た 5 ま せ ね 1 だろう、 کے 思 1 ま が

賃貸 あ Ć には五年 勤務先が 貴 0 た 方は 間 変 渋 で 住 わ 7 よう んだ を探 0 た \mathcal{O} か で、 ٢, しろ渋谷の方が で 検索 ま 気分を変えた した。 九歳で上京 阿佐 渋 近 1 ケ 谷 7 か 谷 に か 1 9 カン 沂 う 5 5 け 気持 阿 調 佐 れ 5 ٢, ろ ケ 谷 通 で

頭線 ア プ 貴 方が IJ を 田 蕆 起 検 索サ 動し 都 市 線 7 一緒 で閲 沿線を探 に見て 覧 いま 7 てま 1 る した。 した T パ ね。 東横線と を僕 t カン 井 盗 \mathcal{O}

が良 り合 そう 1 方 で 9 ては な な か苦労 な か だけど、 ら 渋谷か る感 貴方 5 U \mathcal{O} 会社 距 で 離 た。 はそん کے 家賃 な لح に 給 折 料

産屋 た。 て、 五. ٣, チ 月 車 エ を諦 乗 五. 件 日 0 貴方は ま ってし か 僕に ま K ŧ 木 0 た 駅 分 を三 ので、 に 0 てい あ ケ る たけ 所 不 そこから先は 莧 動産 ħ 7 سلخ 口 屋 ŋ を 不 ま 動 ね

決 貴方は 8 カン 距 ら歩 カン 離 5 た。 ** \ 引 な で 11 て 0 七 渋 越 ところ ね。 分く 谷ま し先 で 5 で \mathcal{O} T は 11 た。 駒 \mathcal{O} 澤 ところに 大学 頑 張 を 駅 田 ħ ある、 園都市: か ば自転車 ら三 駅 秋 線 桜桜 で、 の駒 でも行けそ ノヽ ウ 大 に 分 学

な \mathcal{O} 間 取 風 屋 呂 り \mathcal{O} ね で لح 間 取 り は لح ま 阿 いう、 た六畳 佐 ケ谷よ کے 阿佐 りは 丰 ケ ツ 丰 谷 チ ッチ \mathcal{O} ア バ そ が れ 少 追 同 1 様

題な そ う \mathcal{O} لح ボ \mathcal{O} 貴 まま持 思 いと思 方 ツ 力 が ま 引 1 9 9 た。 ま てい 中 越 た。 仕 力 0 掛 準備 メラ 7 引 け を始 7 と盗聴器 0 越 お し先 8 1 た そう を仕込 力 で メラ だ b 使 0 \mathcal{O} た 0 んだ置き時 方 7 \mathcal{O} は れ 回 収 計 電

た。 \mathcal{O} T バ 月二一日に、 \sim 忍び込んで、 貴方が仕 配電 事 に 盤 行 \mathcal{O} 0 力 7 メ 1 ラ る は 間 口 12 収 阿 佐 ケ 谷

運転 大学 阿 佐 貴 力 上げ 手さん 方は メラ 出 ヶ谷 引 ま 7 لح 9 見 時 盗 越 月 てみた と同じ 手伝 しま た。 聴器 五. 日 が 0 様にべ ら六 仕掛 た。 て貰 から三日 畳 引 け 0 間 て、 ツ 7 0 F あ 越 間 \mathcal{O} 中 脇 る \mathcal{O} 屋さん 夏休 は 置 日 \mathcal{O} 棚に き で済 ほ ぼ 時 4 置 計 を フ 4 \mathcal{O} まし は、 トラ 使 か オ れ 口 0 新 ツ 居 ね す \mathcal{O} でも で、 駒 沢

貴 た置き時 0 て が た 事 計 \mathcal{O} に行 で \mathcal{O} 他 力 0 に メラを て £ う 11 る間 __ セ 台 隠 ツ に 忍 } び 込 す 力 うる場所で メ ラ λ を で みよ を 仕 決 掛 う 8 け る う

大学駅 か ら歩 1 7 1 今度 \mathcal{O} ア パ 周 ŋ

カン 級 た 感 住 で 宅 す あ 街 る \mathcal{O} な 世 と思 田 谷 区 1 ま 地 付き二 1) た。 · う \mathcal{O} 階建 は Þ は 7 ŋ \mathcal{O} 大きな家が イ メー 通 n

を オ 二号室 才 口 口 出 一来る 日 . 忍 12 置 みま で、 り た 貴方が もう た。 いと思 一台は 置き時 仕 事に ま 丰 計 行 た。 ツ 0 チ 画 7 角 間 全 畳 部 間 な

今 が 内 度 阿 出来 佐 部 な \mathcal{O} 丰 カン カ 配 0 れば良 ら穴を 谷 電 0 7 た。 チ 盤 کے まう 同 \mathcal{O} 空け にあ 位 か 様 置 \mathcal{O} 9 た る カン で 7 らする 冷 配 \mathcal{O} だけ どう 蔵 電 盤 ズを通すと 庫や電子 لح れ しよう \mathcal{O} ٢, ほ ボ ぼ ツ 冷蔵 か 反 対 1 う 庫も電 も考 悩 側 に 4 \mathcal{O} \mathcal{O} 仕掛 ま は え 壁 子 技術 け た カン る ジ 的 6

京 同 家 丰 上京 があ る 電 な ツ 出 チ لح 来れ りま \mathcal{O} 見 畳 え 間にあ うこと ヌ 今置 コ まう 時 置 る ば た。 ポ カュ カン カン か お る が で 手頃, た \mathcal{O} 11 . うと、 事 小ぶ で、 れ は る な 中 あ 貴方 まり あ カン \mathcal{O} だけ お る 貴方 5 \mathcal{O} が 意 程 食器 と 腹 思 る 味 度 れ が 音楽を が ど、 中 棚 画 カン 電 ま 色 な 角 話 先 な 力 が と思 端 に、 た 置 れ 聴 5 メラを しながら傍 き は が 7 出 貴 置 時 \mathcal{O} 1 \mathcal{O} 方 ま 計 る ヌ き 様 が 込 使 同 5 東 0

所 1 動 か が **t**) カン ぜ 出 が な な り、 ので 置 と思 胸 カン た。 定期 た場 抱 1 ま 的 所 た。 に電 り に ょ また て、 池 0 7 \mathcal{O} 交換 何 は ま た ょ 何 をし 置 £ ŋ 電 莧 源 え

撮影 手 込 た来ようと思 中 でも 、縫合す かな して、 1 良 て中 他に 同じ と思 1 ば に 物も見 丰 1 ま 色 出来そうだな、 カメラを入 ツ ま チ の糸と縫 た。 した。 つから ンを見渡せる 結構毛 な い針等 て、 カン と思 0 た \mathcal{O} 同 むくじゃ ところ 道具を用意して、 U \mathcal{O} 11 色 ま で、 L で \mathcal{O} この 糸を使 た。 らな 力 ス ヌ メ \mathcal{O} マホ ラを 1 って で で

手く 7 所 \mathcal{O} 仕込 ヌイ を にカメラを仕込 て後日 わ 変える度 えて、 むこと グ ルミにな に が 面 また貴方が 白 いろん 出 来 0 む作業を て貴方 て、 0 た な 結果的 です。 場 仕 に 面を しま 事 可 \mathcal{O} 愛が 見 に した 日 に せ は貴方に てく 忍 5 考え れ び れ 込 7 抱 た通 いる て、 W カン で 僕 りに ヌ な た は

日 五 池 日 Þ を入 目 は り電 は 切 池 え 寿 要が まう が 短 あ \mathcal{O} りま て、 で、 そ 頻 た 繁 \mathcal{O} 都 に 度また 見 7 1 忍 る び کے 込

出 池 しまうこ ? を入 背 電 池 中 が 縫 切 カン れ 0 た糸 ま 0 7 たで ま 中 を 解 に 0 7 ŧ, れ て、 何 7 週 縫うと ば 力 間 メラ らく か、 そ 長 1 を う \mathcal{O} 取 時 ま

た。 は 何 月 Ł そ \mathcal{O} まま 映ら な 1 期間 が 続 くことも あ り

多か なサ です 2 ぼ Ŕ 0 カン 類 何 口 た 度 ウ が ですね 大 分違 訪 あ ス 間 布 0 た も沢 ラ って、 に比べて、 り 山あ ま 渋 チー した。 って、 は 谷円 り土地 ズとか お酒 Щ 生 \mathcal{O} 町 調 柄 お 布 店 ノヽ 4 サラミとか ツ な 店 に کے Ŕ 7 \mathcal{O} \mathcal{O} カュ か、 ミ的な 時 とは お ピザも 客 \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} が 種 フ IJ さ ス を

ガラ ことが 調 布 出 張 店よ りに 来 ま りも な た。 って お 店 は る 狭 か \mathcal{O} で、 0 たし、 コ ツ ク服 客席 姿の と調 貴方を見 理 場 \mathcal{O} 境 る が

P の黒 な 縁 る部下な り 眼 動きが 鏡 調 だけ 理 鈍 れど、 ている村永さんも \mathcal{O} で 1 感じでした。 しようか。 金髪だった髪は黒髪に 確認 でも貴方 しま に L なっ た。 0 ててて 頼 t

きま た。 ね。 そ した。 今 消えて暗くて、 翌年二〇 \mathcal{O} コ 街もテ 口 ナ の自 一粛とは 年 全部が喪 ビも自粛 の三月十 また違 に 服 日に、 ド 9 た悲壮 で、 てる様な感 東北 渋 感 谷 が \mathcal{O} \mathcal{O} 地 街 震 ŧ, で が か た

恋愛する様な気 \mathcal{O} 年 も貴方 は 配 は 淡 なくて、 Þ と毎 日 \mathcal{O} 本屋さんに寄 仕事をこ な 0 L て、 て経営に 男 性 関

す 0 7 本を お 店 を 買 開 0 た < 為 り \mathcal{O} 勉 強 な ま \mathcal{O} カュ な、 ね と思 これ 1 は ま 将 来地 た 元 帰

屋 11 7 僕 \mathcal{O} PCで貴方 毎 そして時 日 Ŕ 間 \sum のことを見て \mathcal{O} \mathcal{O} 許 頃は す ちや 限 り自宅 λ いました。 とア の二階 ル バイ にあ 1 にも る 行 僕 2 部 7

る 5 そ しぶ \mathcal{O} 翌 うこと 年二〇 り \mathcal{O} でした 電話 があ ね。 年 \mathcal{O} 0 て、 五月に、 貴方に紹 お友達 介 した \mathcal{O} 1 1 ツ 男性 コ さ カン

拝見 λ 同 \mathcal{O} いうお 仕 کے 待ち合わ しぶりの お店に 事をして しました。 ツコさん ツ コ 店でしたね さん 入 せは六月八日に新宿 彼氏になる、 (h) いるとか の彼氏 \mathcal{O} ちょっと離れ 彼氏と、 の友達で、 この日は僕 い 0 安岡健太さん 貴方と安岡さ てましたね た席 食品 の居酒屋 も仕事が終わ でした。 メ と 1 いう人 その λ 「ラオ 力 が \mathcal{O} 四人 は った後で 企 貴方 した。 ツ 画 コさ 開 発

たち とカラオケに行 ツ コさんは多 分 以前 た 時に に 貴方 た方ですよ が 専門学校 ね 時 代 12 同 級 生

ス ウ しこま エ ツ コさんと貴方 り ま } 0 たスー を着てラ た。 ツ を着 フな の前 感じ た に 座 が \mathcal{O} 9 人が 紹 介 いる男性二人 され ツ る安岡 コさん さん \mathcal{O} \mathcal{O} うち 彼氏で、 だ

 \mathcal{O} 安 岡 氏 たち さ カ は三三歳とい らするとずいぶん大人な印象で うことで、 今 ま で \mathcal{O} 貴 方 \mathcal{O} 歴 ス

は違 姿だっ 気 の意気 最 たこともあ 込み 初 カン とい ら結 . う様な: る 婚を意識 け れ 物 ٢, を感 して 今ま じま る で لح \mathcal{O} た。 合 いう様な コ IJ 何 カン لح

岡 先の貴方 さんは ば まり真面 とても Š 目 り取 誠実そうで、 過ぎる人も信用 りにやることが りをしっか 良 りチ 出来て嬉 出 印 象 な エ ツ と思うけ た。 て 0 た。 いかな これから Ę, け

喫茶店に 僕はそっ 別 そ て、 日 5 は 紹 居 た 介した安岡さんに聞 0 て、ノ 後を 後 酒 屋 で うけ でお開きにな 残 ツコさんが ていきま 0 た三人は 今 した。 って ていま 日の 一緒 貴方 貴 そう に 方 歩 た。 がお \mathcal{O} したら近 印 7 象とか 店 前

た。 容姿も可 安岡さん 愛ら は貴方のことを、 7) とすごく気に入 とても性格が 0 7 良さそうで いる様子でし

だから貴 n まうな 僕 て気に入らな は 方 と思 な の反応次第では、 \mathcal{O} 当た 1 ま 男なんて した。 り前 だ V) と思 る訳が、 これ 1 ま は な 付き合い た。 いと思 貴方を が 1 始 ま した。 ま 紹 って 介さ

のを追 そこから で そ まま僕は ツコさん 東 7 海道線 11 きま 安岡さん たちと別 に乗 た。 0 れ 安岡 7 \mathcal{O} 後を Ш 7 さん 崎 ひと 駅 け は 9 で 降 山手線 Ш ようと思 りま 手 線 で品 \mathcal{O} た。 方 って Ш 向 新 行 う 宿

ら歩

7

分くら

日

ン

でした。

階

だ 素 は 7 今ま り 出来な が 7 で ピッキン 尽 は 貴方 間 ガ だろうなと思 は ラ や柳 管 ス したくら 理 Щ り ざん の人 とか 11 いました。 が 常 では 駐 ドア ア 7 を開 る 1 とは け 様 口 で て忍び込ん ツ 訳が違う、

な いと思っ 安岡さん ンをま めにチ たので、 \mathcal{O} 7 ンションに エックし 貴方との電話での会話や、 て 盗聴器を仕掛 1 くことにしました。 け ることは メー 出

言葉遣 とこういう風になる ました。 これまで 貴 方 لح いとか、 安 年齢: 岡 的 さ 者同 誘 にもそう W い方とか \mathcal{O} 士 のでしょうか ŋ だ 時 取 たけど、 が \mathcal{O} り を見 とても大人っぽ 砕けた感じとは違うと思 直接結 7 1 ると、 婚を意識 安 1 ですね 岡 さ てる λ は

僕はこの っぽ しまし と思 時三九歳だっ た。 0 て、 たけど、 っぱ り社会から なんだ か 取 全然 り 残され 僕 \mathcal{O} 方 が

きめ 貴方の た感じ 着実に した。 方も安岡さんのことを心 交渉を進めていこう ではなく、 お互いに ځ 相手 カン いう ら大 \mathcal{O} 様 好 希望を尊重しな な、 き~と そ λ 1 う な 感

復讐 貴 方 た ぱ には 鬼としての本分を奮 にちのテ り、 ** \ かな 貴方が男性 ンショ 壊 との は て 11 立たせ 恋愛を ま やらな いち低 7 け 成 、熟させ 11 カン れ かな った ば と思 けれ لخ ま

ある 大 とらしく 感じがました。 です~」 岡 0 さ ですよ」とい てきま 誘 て嫌 λ 2 1) は でした。 次 て嬉しそうだったけど、 たね んだろうけ 貴方の方も「銀座でお寿司なん 。それ 今 ってるみたいな 度は二人 も銀 بخ な 座 んだか 食事 \mathcal{O} のが お そ 寿 に ちよ れ 司 行 「僕には 屋さん けきま ŧ 何 0 と鼻に だ て初 か ょ でした。 金 う、 わ ざ 8

彼氏 を窺 せま て 行 貴方が早上 高そうな た でお店 家に帰 安岡さん ね。 って った という様なこともなく との付き合 したね。 電気を消 寝る支度をして、 お店に には行 安岡さんとはどん \mathcal{O} 0 まし てす が は貴方の仕事 でしょうね。 貴方はきっ り た。 Ć P して は一人で入る勇気 けませんで の六月十六日に有 いみたい 寝てしま 貴方が帰 Cを立ち上げ と精 に、 どんな気分で 僕はその \mathcal{O} した。 な雰囲 都 貴方は 帰 合 9 一杯背伸 て来た に 9 気だっ は無か 日遅 楽町 どうせ行 合 てきてまたす 淡 た。 わ くま 貴 $\mathcal{C}_{\mathcal{C}}$ 々 \mathcal{O} せ 方 る た 駅 は 9 7 たお 前 で仕 たと思うけど \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} 0 < ても 部 か ヤ カン で待ち合 れ 時 事 洒 ワ 屋 7 過ぎで 以前 そんな 窺う に電 だっ 落を を浴 様 次 た

 \mathcal{O} 僕 は そ 日 \mathcal{O} <u>一</u> 日 に 張 後 り \mathcal{O} 込 休 ん 4 でい \mathcal{O} 土 ま 曜 日 に、 た。 早朝 会社員だとい か ら安岡さん って

さん き 屋 ま 民 11 何 せ 時 る に \mathcal{O} 口 名 前 住ん が 郵 ツ 時 クで、 前 便 は ロビー 貴方が 受 遊 は 夜だ 住 けにも、 た。 人の いる 分からな CK 安岡さん 0 \mathcal{O} たし S 入 安 出 だから建 \mathcal{O} りを り 口 カュ 岡 掛 ŧ さ 部 事 11 け 様 を 屋 分 何 物 て 開 り に \mathcal{O} 他 に カン は な ま 閉 に 紹 は 番号だけ ŋ する鍵 せん。 介され 分 緒に入るということも出 0 7 て れ 2 7 ** \ ます。 ţ を回 無か ヨン が た 入 書 り 安 日 一岡さん 11 してドアを開 に 天 気 7 \mathcal{O} あ り 口 脇 後を \mathcal{O} 0 って に並 が で た どの 安 け 才 す。 部 出 5 住

きま カュ 僕 以はただ な た か 0 入 た 'n \bigcirc 「口を見 です が ` 張 って、 + ・時頃に、 出 な てくる 0 て安岡さん \mathcal{O} を待 0 が 7 出 る 7

9 細 た 長 ち け クラブ 9 と色 -スを下 頭 が \mathcal{O} \bigcirc 方が 入 げ 0 てい 音符みたい 7 た ** \ る ま 緑 す。 \mathcal{O} 2 だろう、 ぼ に ラ 1) 膨ら 1 セ $\dot{\mathcal{I}}$ $\bar{\lambda}$ と思 ル タ 4 でい た を着 いました。 る 1 ので、 だなと思 7 肩 に

崎 た 駅 次 安岡さん まで行き、 \mathcal{O} 駅 で降 は 歩 りま 品 1) Ш 7 行き た。 R Ш \mathcal{O} 電 崎 車 駅 に で はなく、 乗 2 て、 多摩 京 浜 急 ||を 行 \mathcal{O} \prod 0

7 ところ る 人た 7 5 電車 り、 \mathcal{O} ところへ行 \mathcal{O} そ 中 して他 から見る え 9 \mathcal{O} て、 た河 人たちが プ 原 でゴル V 並 ブ ん で \mathcal{O} フ 受付 ボ \mathcal{O} 練 みた 習 ルを を 打 1

へ 向 0 ってボ るところ ールを打ち始 行き、 めまし 1) 7 いるところ た。 \sim 立つ Ш

たことを思 てみても、 11 きます。小さい パカ いました。 ーンと音がして、白 安岡さんは い出しました。 い頃父に連れられてがして、白いボース かなり上手い方なんじゃな 他 の打 っている ルが遥 ゴ ル フ か 人たち 練習場 遠 と比 飛 行 か ベ لح 0

ど、 って、 を食べながらビー がら、そのまま二時 ンへ戻っていきま それが終わるとまた駅 誰かここに 途中で自動販売機 駅の前にある中華料理の 知 り合 ルを飲 した。 間 11 くらい で買 でも んで、 へ歩い へったジ 1) る お店へ入 そのまま一人でマ て電車に \mathcal{O} で打 ユ か なと思 スを飲んだりし っていました (h) 乗 b, って 炒飯と餃子 Ш ンシ 崎へ た け 戻 彐

で すね。あまりガツガツしていない、 した。 ただの独身サラリー 人なのでしょう この 日は貴方とも連絡を取らな か 7 ン \mathcal{O} 休 日 \mathcal{O} 余裕が 過ごし方を見た カン あ 9 たみ るところも た 11 で U

東京湾を周 てきました ですね。 安岡さん は次 ね。 回しなが 浜松 \mathcal{O} デ 5 町の晴海埠頭から大きな船に乗って、 食事 トに貴方を東京湾 するな んて、 凄く クル 口 7 ズに

はそういう気取 0 ても負け惜 9 しみに た \mathcal{O} は あ カン W ま 聞こえません り好 きでは ね。 な

に λ 乗 لح 待ち合 月二 た。 λ わ 日 ですね。 せ \mathcal{O} 木曜 て、 時 日 そこから晴海埠頭 間 \mathcal{O} 夜、 は夜 貴方 \mathcal{O} 七 時から 浜 松 \sim 行 九 町 時半ま 2 7 一緒 で 岡 コ さ

る方な 日 調 ンもオ たら一人二万円 んだろうなと思 口 ックだし、 もする いました。 さぞ社会的 んですね、 スティ 安岡さん タ ス 7 あ

た 思う様に 11 しようか のでしょうか、も 口 7 それでこそ僕 チ しました。 船の上から東京の夜景を眺 ックな夜を過ごして、 の復讐の っと倖せな気持ちにどんどんなれ 効果が倍増される 貴方は倖せだ めて、 キスでも \mathcal{O} 0 だ。 ば

また前 と考えました。 どうや ・ルで送 に 柳 って貴方が 川さん ってみようと思 安岡さん \mathcal{O} 時 傷 に つく は真面目で、 様な いま た様に、 した。 別れ方をさせてやろうか 貴方 誠実な人だ \mathcal{O} 悪 1 を匿り から、

前と同じ様に、 レスを設定して、 て文章を書きま いつでも削除できるフリ 差出 した。 [人名を 「貴方を守る女よ メ り

貴方のことを、 生 て安岡さん そうにな 出掛けていて、 \mathcal{O} った。 暇さえあ に送信 前 等 と揉 とあ れ しま \mathcal{O} 店舗 8 ば男を漁 事 ることな を起 では こし 調 る為 理 こと書きまし て 師 に クラ の男を巡 危う ブ 0

||る さ 奥さん ら貴方 と娘 け さ が メー بخ. の方には、 いて、そのことを友達 ルが 安岡さんはどうかな、 送 来たということさえ貴 実は 9 ても全く 安岡さんには のノ ス ル と思 ツ 別居 コさん さ 方 ま てい は言 彼

氏

にも隠

して貴方を紹介して貰っ

てい

る。

کے

いう

ルをしま

た。

たね に電話 どうな ってい をして、 ツコさんは る 、ました。 かな、 こんな と思 信 じられな 0 メ 7 1 たら、 ル が来たと \, 彼氏 貴 方 に は いう話をしま ま 確 カン ず 8) ツ みる、 コ さ

ど、一人暮らしで付き合って う は安岡さん た奥さん その後 ことでした。 何分かり が \mathcal{O} 7 いるなんてことは ンシ して 彐 ンに遊 ツ コ さん び いる彼女も 聞 に行 カン ら電話 たことが ったことがある いなくて、 が あ な 9 別 け 彼 居 れ

きっ る のだろう、 と誰 ッコさんと貴方 カン が というも 安岡さんと貴方が付き合う が \mathcal{O} 1 でし 3 11 た。 ろ 話 をし 7 出 \mathcal{O} を邪 た結 魔 論 てい は

電話 でもそ しま は繋がらな いま \mathcal{O} 後貴方が安岡さん 5したね メ ルもラ に連絡を取ろうとし 1 ンも返事がこなくな ても

て三日 書 0 て、 てあるメ くらい 安岡さん が 経 が は 0 すぐに、 た時、 きたけれど、 ようや 貴方に それは本当の 0 安岡さん いて、 酷

だな ことな が 5 せ て、 てる カン そん と聞 ん です。 きま なことは私 した と 説 明 は そ しま P 0 した。 7 て貴方 \mathcal{O} に、 が 男漁 か が 嫌 n

ね。 方 が は 誰 実無根だと安岡さん 貴 か ると 方 が 方 なことをする 自分たち ることは \mathcal{O} \mathcal{O} 方も、 知り合い いうメー O間 安岡さん 違 邪 \mathcal{O} 誰 人が 魔をする為にそんな がきたことを話 は な カン に が 1 1 まし けど、 るはずは 0 いて、 ていることだといいました たが 自分の な 別居 しま 1 安岡さん した。 カュ 知 X り合 ら、 7 ルを送 1 き そ る \mathcal{O} 1 方 奥さ 0 \mathcal{O} と貴 中 り は 12

5 が引 \sum_{i} 会話 7 7 を聞 \mathcal{O} 11 が 7 分 りま 7 安岡さん た。 に対 す る貴方 \mathcal{O} 気 持

持ち 11 難 僕は失敗 を踏 で 物 は みにじる ですね なく たな と思 様 安岡さん 持 いま 0 した。 て行きたか \mathcal{O} 気持ちが引 貴方 \mathcal{O} 0 気持ち ** \ た のに、 て、 貴方 引 \mathcal{O} 気

ま に ま な ことが って、 た。 そ 切 \mathcal{O} 0 掛 ままどちらも連絡を取 け で貴方と安岡さん 5 \mathcal{O} な 間 は 険 な 悪な 0 7

関 匿 安岡さん 名 り しよう は社 あ る ル 相手と を送 会的 か。 な ŋ は ス 0 テ け 結 婚 て人に 1 タス た 嫌 くな \mathcal{O} が あ らせ る方だ 11 を ということだ カ する様な 5 そ

か 知 前 ってい っと揉 5 コさん 方 ね を 店で中 ん 送 るとすれ め事みたく と話していました。 \mathcal{O} 2 0 いう様 7 きた 野主任を巡 ば 職場 な 安岡 は 9 貴方 たことは事実だし、 巡ってアルバイトの 誰 さ \mathcal{O} 関係者 な と自 \mathcal{O} \mathcal{O} それ カン 周 分と で 进 12 が 重 か 1 \mathcal{O} る 要 カン あ りえ 12 誰 な \mathcal{O} 両 女 そ カン 間 方 な 貴 \mathcal{O} な 題 の子とち ことを 方が \mathcal{O} 11 です か

t 心 出 いな で も僕 は 間 全 1 ま 1 だ から、 せん 仕 くら 事 でした。 \mathcal{O} 貴方 関 1 係 の気持ち が 者 む 僕 で しろ思 は \mathcal{O} 存在 で に 思 出 カュ 50 せる 貴方 11 至る 物 が とは 覚え なら 全

7 は Þ て身に覚えがな り安岡 な 恨 結 局は貴方にそんなメー λ かと、 で さん いる女が そんな考えもあ \mathcal{O} 方 から、 いて、 に横 恋慕し 貴方との ルを送 ツ りま てい コさん \mathcal{O} る 関 9 لح た 女性 7 係 くる ね \mathcal{O} を 話 لح 邪 人が 魔 か の中には、 捨 7 てられ るん る な B λ

物 たに カン は そ メ 何 0 とも、 た 間 何 をで から、 他に た を考えても 様 \mathcal{O} うよ 不信 理由 ₽ で っち上げて 自分で匿 っと深読みして、 感とい りも、 た があって、 堂々 名を装 う 巡 り 送っ して僕 後 か てい 貴方と で結 0 ŧ, さ は 間 て貴方と自 しか ま じゃ 残 た 出 関係を終 係 ずに ŋ \mathcal{O} な ま たら安岡さん 貴方に復讐 怖さみた 分とに 1 ただ貴 わ かとも。 りに そ 方

した 最 ね。 新 型の盗聴ア どんな手を使ったかに \mathcal{O} 一三年に、 プリをインス 僕 は 貴方 つい 7 ルすることに成功 \mathcal{O} は ス また後で説 7 ホ 明 ま ま た

出来 て、 報や通話 知 その る様 らな 貴方 お \mathcal{O} 陰 になりま 間 メ で ス に遠隔 そ 7 ホ れ P カン 操 た S N 周 らは 作 进 貴方 でス S \mathcal{O} 音を \mathcal{O} やり 7 が ホを起動 何 1 取 処 つでも盗聴することが りだけでなく、 12 1 る することも出 \mathcal{O} か \mathcal{O} 位 貴 置 方 情

に 貴方は ス 全てクリア 7 ホを入 事 調 理 くことが た 場 E \mathcal{O} で、 1 る 出来る様 僕は仕事場 時 t 12 コ な ツ りま で ク 服 \mathcal{O} 貴方 \mathcal{O} た。 ポ ケ 会話 ツ

寝る に 力 を消費 早 ただ 前 な コ に 充電 と思わ して レを頻繁に いる てく れ な ので、 いか心 7 ていると、 バ たので、 配 ッテリー した 貴方 \mathcal{O} です が 助 無 \mathcal{O} カ くなる 知らな が、 りました。 貴方は \mathcal{O} が 間 P け 電 晩

ま 一緒 した。 五 月 十 に 新 九 宿 \mathcal{O} 日 日 \mathcal{O} \mathcal{O} は 土 居酒屋で誕生会をしました 曜 日 ツ 12 コさんと、 貴方は二八 もう 歳 人女性 \mathcal{O} ね 誕 生 日 \mathcal{O} を迎え お 友達

が で 僕 以は貴方 ま した。 に \mathcal{O} 1 ス な マホ て に仕込んだア 三人 の会話を逐 プリケ 聞き取ること シ 彐 ン \mathcal{O} お 陰

コさんは 昨年貴方に安岡さんを紹 介してくれた彼

る 氏 7 とまだ付き合 \mathcal{O} カン いるというお話 というと、 0 活 で した て、 ーテ ね 安岡さん 1 で 知 は ŋ 合 あ 0 \mathcal{O} た人と付き合 後どうし

て子供が さん結婚年齢が上がってきている だ独身で、 婚ということに た。 のかもしれな ツコさんと一緒に 彼氏も る人 少なからず関心は のことを話題にしてた いけど、 な 来た、 いとい でも他 って 7 から、 あ いました کے \mathcal{O} るん 同級生 呼ば のには、 珍しい だろうな れ で既に結 ね。 7 いた こと 最 Þ と思 は 子 婚婚 では は 結 皆

n たの 貴方が実家の は この後 お 母 で した さん ね カュ らお見合 **(**) \mathcal{O} 話を持ちか け 5

1 から一 新潟 貴方は最初全然その気は じゃな へ帰ることになりま 度里帰 1 、というお母さん りして、 9 したね な ** \ いとい でにちょ \mathcal{O} 説 得 0 に 0 7 と会 負け いたけれど、 て、 ってみれば 夏休 4

来ま で、 省することにしました。 くことは出 七月十七日と十八日に休みを取 貴方が 誰 来な カン か と会話を ったけれど、 僕は仕事 ている声 新 があ 0 は て、 い盗 った ほ 聴 貴方 ぼ 聞 \mathcal{O} ア プ で は IJ 新 潟 \mathcal{O} お 7 陰 11 帰

よると、 貴方には お兄さんには結 お兄さん が 1 る 婚の決ま λ ですね、 って 1 話 る彼女がいて、 て 1 る 内容に

会社 察 回 することが を Þ 縁 談 2 7 は 1 出来 兄さ る社長さん ま \mathcal{O} た。 仕 事 \mathcal{O} 関係 息子 で \mathcal{O} あ 知 る り 合 کے いうことまで、 11 で、 地元

ま てようとするけ 貴 した。 雰囲気で、 ていると、 方のご両親 乗 11 れど、 ٤, い 話 り 気じゃ だい お 兄 それに対する貴方 さん な い話だと貴方 11 Ŕ という気持 お . 兄 さん \mathcal{O} ちが 気持 \mathcal{O} 受け答えを \mathcal{O} 伝 5 彼 を盛 女も わ 0 皆良 り立 聞

とま 生 嫌だろうな しさみた そもそ の従兄弟であ っていく いな物 ŧ あ そ と感じ · 宿 命 \mathcal{O} があ る 相 み لح 手 た کے 7 いうところに、 て、 1 な、 う ました。 聴きなど \mathcal{O} 何だか が 貴方 が ら僕 郷里 何だ \mathcal{O} もこれ な か 小 5 狭 中 では 1 は 地 校 き 域 \mathcal{O} 息 で 同 0 苦 ま

元 ね カン \sim ご両親は 戻っ てレストランを開 な いと、 もしそ 貴方を納 人と一緒になれ 得させようと一生 く時にも、 力に ば な 将 一懸命 来貴 9 7 方 が る 圳

くるこ も貴 めら 方 が \mathcal{O} 手に ば 気 勧 持 取 8 5 を汲 5 る 様 れ る に W 分り 程 で < ŧ 貴方 る た。 \mathcal{O} 中 は 12 11 . 反発心 な < 7 が 起き 周 Ŋ

う と思 できつ 日目にお 0 昔 た る ば です き 4 面 識 た と気持 · 見合 ね あ でした ご両親 1 ちも \mathcal{O} 5 会場 が は 相手が いざ相ら わ 12 行 0 てく < 来 手の方が現 \mathcal{O} さ ん て、 なん だ 会っ 気 が重 7 お

貴方とお 日 ょ りで 親 相 す な挨 手そ 方 ね。 ね 災拶を交 だ \mathcal{O} \mathcal{O} 両 っちのけ 親 若 ば 0 カン 人は将来が楽 り 希望あ \sim 貴 チ 方 ヤ る未来に しみ チ ヤ 喋 ですねだ 0 9 て、 1 7 良 先 方 0

顔を 憤 まらな 貴方 1 った気持ちが僕 しんなア 声 田 るんだろうな が 一舎に押 滑こえ イド \mathcal{O} 中 な し込 に に 11 も負け 沸 ٢, だ \Diamond られ け 11 てきま に、 想像 な 7 が き 様 つきま 0 と詰ま な貴方 た 訳 が が、 らな そうな そんな 可愛ら う

は の方が「 両親が に ま どうです そして定番 いうん た ね 席 今日はありがとうござい か ですね、 を外して 0 とか 後は若 湯を取る 笑って 二人きりにな い二人に任せ しま り繕おうとして言葉を ま ます」とか 0 た。 てか らは、 賑 と 「東京 やかな二組 いう お \mathcal{O} 相手 \mathcal{O} 方

貴方 る 7 べくなごやか らしたね 方も 相 手 \mathcal{O} 気 思 を 悪 い遣りを感じさせる言葉で返答 くさせ てはな 5 な 11 لح 思 0 7

暖 師 家族 られ な自 地元 7 を磨 \mathcal{O} に てる 戻 \mathcal{O} 様 0 生 てこ な 気が な け 将 人 れど、 来お店を開 で 11 \mathcal{O} に、 と しますよ 貴方が 1 う 貴方 倖 は 勝 は 為 手 S せ に 自 · 経営 決 り な 分 東京 8 \mathcal{O} を勉 向 で う 強

らす が 出 てきてしま 夕方 ルをしだして、 いま そそくさと実家に戻っ ともう帰 した。 お見合い らなきや、 \mathcal{O} 返 7 کے 事 11 は帰 帰 0 り支度 0 7 カン 間

気が と泣 たミスチ 々鼻をす ネヴァ ŋ 新幹線 す り上げ るのかな の曲を聴 ウ の中で、 貴方はリピー 7 ズ」という曲が貴方の心情 るみた と思 ていまし ス い ま 7 な音 たね した。 \mathcal{O} 中にデ て三回 が 聞 こえた 特 12 聴きました。 タ録 \bigcirc 音 は ウ って モ き 時 る

屋に てもみません け に、こんな風 末年始に貴方は実家へ 僕だけ でし に泣 た んは貴方 ねい て戻 僕は遠く離 \mathcal{O} 帰ることを楽 気持ちを知 ってくる れ 日 た自 が 0 しみ 分 る 部

いう電 ま てお 後 話 お け て、 母さん いて、 が二回あ ごめ お見合 カ んなさ らお りました 見合 1 \bigcirc ね。 とい 相手だっ 1 \mathcal{O} 貴方 0 7 た二宮さん はまだ考えさせて 頭を下げ 返事を聞 7 カン へ直接 謝 せ 7 7

7 ま 電話を切ったあと、 君が好き」と「常套句 ま 好きな女の子 ね。またミス また安 チ لح を 赤 子 う 聴 ワイ 曲 \mathcal{O} 11 を繰 7 り返

な内 容 訳 歌 詞だけ な ** \ 気持ちがあ れど、 貴方 る に \mathcal{O} か は な、 お見合 と思 1 相 1 手 ました。 の二宮さ

まったの 興味を失 うも のに白け カュ ってしま あ 恋愛系のテ てしまった って った感じでした。 それ というか、 以降 ビドラマさえも見なくなって は 貴方は男性 す 0 か との り冷 めてし

声をかけてくれましたね 何も話さな そして仕事に行くと調理場 < ても 「疲れた 顔 の村永さんがまた、 してるけど大丈夫?」と 貴方が

る様 う ですよとか、 の に、 アルバイトだから、上司を持ち上げなくてもいいと思 その上貴方のことを、 で、 本当に心から優 何だか気味が悪 勇気づけることを言ってくれます。 美人ですよとか、 11 しいことだけを言 くらいですね。 とても魅 ってくれ あ

る 合わせ ま 店 僕 ツ 対する恋愛感情 いま はそんな村永さんの した。 て調布 んて珍 バイトとして応募し 貴方を慕 あるだろうけれど、 店を退職して、 は全 くもな とま 心 感じさせないし、 って、 理が で思 のに、 貴方の てきて、 貴方が異動になるとそれ 計り知れ 十歳くら 実はこの 異動先 それ た。 な 歳 < な が離 て、 の渋 谷円 考え 差 方

見 永さんだ いる からな 範囲で一番付き合 のか、貴方 は とても の深 間

っていました。

新 た りも り 貴方は ミス は プ ま 同 した店 日に休みだ チ があると仕事 F V 0 \mathcal{O} た 時 D を貸 \mathcal{O} 帰 は りに 映 画を観 7 あ 一緒に行 n 0 0

だけ 7 せる様 でも僕は、 んは盗聴 た。 な言葉は 貴方が それは二 り、 切出 後を デ つけた てこ \vdash \mathcal{O} 会話 な カコ 掛 りする \mathcal{O} Þ け 9 たか りと 7 必要は ŧ 5 りに 村 す。 は 無 永 恋 さ 1 愛を と思 \mathcal{O} 時 0

にそ 貴 方 村 永さ ようか。 ことを聞 方はそんな村永さん んがそう <u>二</u>人 て いう方だ 4 の様子を見て た と思 لح のことをどの いうことは 0 いて、 7 いま 僕はず 様に 分 た。 ったの 感じ 0 てい と貴方 で すが た

貴方 は 思 店 の後を追 0 舗 年 てい と異動 たけ 0 ___ て新宿 れど、 にな 四年 りま 南 村 更 永さんもまた に貴方 口店にア た。 き は 円 9 とそ Ш 円 町 5 5 店 1 Щ す として応募 町店を辞め か る 5 新 ろう 宿 南

くる か。 ということに、 こまでし 7 村永さん 貴方 は が 自 何 t 分 感 \mathcal{O} 異動 な 先 カン \mathcal{O} 0 職 た 場 \mathcal{O} で ょ 7

感じさ 気持ちはそうとし 永さ せ W な は 貴方 11 け れど、 対 か思えな 客観的 7 恋 愛感: 1 に見 情 Þ な 7 が 7 あ ですか。 れ る ば、 永さ 微

村 た リを 方 た とを 気 よう 理 しよう カン 7 解 いな それ か。 な カン \mathcal{O} に貴方は て それ 1 とも気 本当 に

契約社員になると配属 0 た 4 契約 た 村 1 社員にならな 永さんは です ね。 店 先を会社 いかと勧い にきた本社 に決め められたみたい \mathcal{O} 5 7 ネ てしまうので ジ Y ですが、 さん

変わ ま すことなく、そ 手線に乗り換え 新 ましたが りません 宿 南 ったの 店 でした \sim て通 円 のまま駒澤大学駅から渋 \mathcal{O} 山町 異 勤 その 動 店は で、 7 な 分を差し引け 渋 \mathcal{O} ま 谷駅 谷よ で貴方は た から大分歩 り t ば ア 少 バ 通 し遠 谷まで出て 勤 時 カン 1 を引 間 な はそう けれ 0 越 Ш

楽な年 また その ? 父親 そうし レス 調 頃は僕 は 理 金 場で淡 暮 既 的なメニ てまた新宿南 活 5 定 \mathcal{O} 安泰 方も仕事は安定していま 々と日々 ユ が中心にな 7 た。 自宅 店で た \mathcal{O} 事をこなして ロー 日 二階 常 り、 ・ンも払 が 貴方と村永 始 \bigcirc 部屋 ま いきま い終え た。生活 0 て、 で \mathcal{O} した。 さん また 僕 \mathcal{O} 方 気 ス は フ

日常 膠 着 刺 7 らず なことが た たというか、 つも貴方のことを見 全く起こら ただ 日 な 々 が過ぎて な てい 0 ま

した。

5 ね 理場 \mathcal{O} で \mathcal{O} 主任に しょうか、 一 五. 年、 なりましたね。 相 貴 変わらずただ貴方の 方は三十歳 村永さんは に な り、 お 側 月 な

は ません あ するこ り ま せ 五. で は ん 年 た。 から二 あ でした。 ŋ お店 ま た \mathcal{O} が \bigcirc 同 僚 年 特定 کے に 何 人か る \mathcal{O} 男 ま 性 で、 で居酒屋に と付き合 貴方 行 恋愛 うこと 0

興味 的 前 プ : ら貴 が 口 様 充実し 方は 子 チする方では でした 合 コ ね れ ば کے な 良 カン か に 11 لح は 9 たけ いう。 出 7 感じで、 Ŕ れど、 自 分か 恋 \mathcal{O} 愛に 頃は 5 は 毎 極

だろうけ しま 目 じていました。 う れど。 ら見 \mathcal{O} カ 5 だろうか れ 見ら ば \sum_{i} きっと貴方 れ ٢ λ 7 な 1 るだけ に美 何 か 哀 に とって ħ で、 い花 4 そ \mathcal{O} が は 様な、 咲 \mathcal{O} 大きな まま 1 7 物 悲

お見合 実家 貴方 が 食 経 堂 営 将 来 は 7 \mathcal{O} まだご 地元 せ 断 本 い も を買っ った へ戻 件 あ 両 ってか、 もあ 親 て勉 0 が 7 元 強 2 て、 気 ス (C た 1 中 実家と ¢. りは ラ 々 9 を ス 開 \mathcal{O} 7 ラン きた 交流 る いたけ £ の夢に近 ぎくし لخ

づく気配はありませんでしたね。

カン 少な 貯 ると 金 百 \mathcal{O} う感じでもあ 五 カン 僕 + 万 には分らな 円 くら V りませんでした。 で、 いけれど、 三十五歳 将来 とし \mathcal{O} 為 7 は \mathcal{O}

が 位 に る 来 村永 3 足 と奇妙な関係 りは上だ とい さん 7 うだけ る と思うけど、 は 貴方よ 感 に映りま で。 じでしたね。ただ貴方と一 二人とも り十歳以上年上だ 相変わらずア た。 独身な \mathcal{O} った に、 緒 カン 5 見 事

行 りま 9 もう村永さん以外に貴方を誘 た したね。 り、 映画を観 この頃村永さんとはちょくちょ に行 9 た りも って してい 、る男性 ま た ŧ 唐 ね 1) 酒屋 な に な

は 僕は思います、 いでしょう か、 村永さんは貴方に気付 貴方を 心 から愛す る男性 1 て欲 は 僕 だ \mathcal{O} で

た、 は一番身近にい というよ くドラマ り気付 لح カン た……なんて。 で かな あ る じ Þ フリをしてい な でも貴方は気付かな 1 です カン る 様 ___ 番 も見え 大 切な カコ 0

は、 はことあ ていな やは 恋愛に発展する り貴方 て村永さん 1 るごとに村永さ のだと カ 5 見 いうことを、 の方も、 可 能 村 性 λ 永 さん は そんな貴方と \mathcal{O} こと 無 強 カン \mathcal{O} 調し を 0 た 7 1 11 7 で 男 関 る 7 性 様 係 **5**. 性を受け とは で た 貴 男

入れている様でした。

のことを見守 てきました。 愛を監 くな て ってしまうと、 視 貴方 まる って 7 で貴方を見守る守護霊 いるだけで た訳ですが、 復讐すること もう僕はずっと一人でい ** \ \ かな、 が ここまで貴方が 目 的 と思う様 \mathcal{O} で、 様 に。 0 恋愛を る貴 と貴

令され 騒 しま が 方 いましたね。 が三五 始ま て、 貴方 って、 一歳に の給料も二割 兀 お な 店に 月七日に る二〇二〇 来る 初 力 お 8 ツト 年 客さんも 7 カン にな \mathcal{O} 5 緊急事態宣言が コ ガ ってしまい 口 ク ナ ウ 減 発 7

たね 貴方に会えるの 村永さん ŧ バ 1 t 週に二、 \vdash に 入れ 三回程度に る シ フ 1 を減 な らされ って しま 7 1 ま

サイ を検索 \mathcal{O} 頃 ・を見た し始 カン 5 8 で りし て、 す ていま 登録 ね、 したり、 貴方 した。 は ス またお見合い 7 ホ で 7 ツ チ T

思 実的 にも三十代 た。 · 結婚 لح 1 うことを考え始めた 後半にな ってきて、 恋愛と \mathcal{O} カゝ ŧ 1 うよ

る 口 ナ カン \mathcal{O} な せ 1 とも で収 思 入 が 1 ま 減 0 た。 てし ま 0 た 危 機 *ŧ*

て家に 何よ 一人でいる時 りも 僕 間 ŧ そうだっ が長くな た 0 て、 \mathcal{O} で す 孤 独感を

感じ ま した。 ることが 多く、 な ったことが 番 \mathcal{O} 影響 か とも

就 てきま ようか 職 口 目 年二〇二一年 した高井透さんとい した \mathcal{O} 緊急事態宣言が ね。 高井さん \mathcal{O} + 月 う人が は 解 除 四十代前 に 感染者数が な 新宿南 2 た 時 半 لح に、 t 11 口店に配属され 0 \mathcal{O} 凄 たところで 中途採用 減 0

に反し は が 立 調 ŋ 場で 静 理 貴方 最 は 発揮され とても良 でも高井さん 場 初 何 てキ 貴方が主任で高井さん が でも出 で、 は貴方や村永さん での高井 たが コ でも ヤ ツ てきて、 関係に 一来て、 リアの上下関係 ク 調 はどこまでも物 やってい 服 さんと 理 \mathcal{O} なって 逆に貴方 頼 師 とし り ケ の会話を聴 が るうちに \mathcal{O} ツ いきま 7 } 方が高井さん に は \mathcal{O} あ な 方 腰 副 経 段 が 0 主 験 が柔らか りそうな たね た 任 教 は豊富 々と高 様な わ 1 な に ることも ま \mathcal{O} 提さん 感じ に、 みた 仕事を教える ス た。 でし 7 で ホ たね 何だか 貴方 した。 \mathcal{O} 5 関 実 てき 仕

が どんな 々 ま 良 思 1 1 雰囲気 ま 11 で見て に 7 な た 0 \mathcal{O} 7 カュ 11 <u><</u> と思うと、 人 のことを、 僕は心 村 カン 永さ ら同

方は 高 高 井さん 井さんが \mathcal{O} 前 店 長 \mathcal{O} 職 B 場 他 は \mathcal{O} 従業員たち コ 口 ナで廃業 を話 しま 7 0 る

たことや、 7 より __ 高井さん 層高 井 プさん に 興味を抱 チ 独身であ 11 た 感じ ること等も でし た 知

をや 彼氏 て、 11 いですね、そんな夢があるなん 高井さんも貴方に、 休憩室で高井さんと二 は 貴方の事を褒めてい りたいとか、 いないと って、 いろいろ高井さんに話 将来自分でそんなお店が出来たら ま 人になった 将来は地元に帰 した。 素晴ら 時 に 0 7 7 貴方は自分 いま 1 ストラン したね

ましょうと誘 悔 様な感じになってし 言葉を濁すような感じで、 で一緒に歩いた時に、 その後 していましたね。 一度仕事が終わ って、貴方は まったので、 高井さんが今度一緒に飲みに って貴方 印象としてはやんわ 「はいそのうち」とか が 後で家に帰 高 井さん と新 9 7 り断 カュ 1 宿 行き ら後 駅 0 9 た 7

ころは に言えな 赤ワイ 笑 ンを飲んで、 2 カュ てしまいました。 0 たかなあ、 な んでも とか言って自分を叱 0 کے // 行きた ** \ // 9 7 2 て感 る

ね 方は家に 高井さん でもそ 高井さんに、 け 帰ってからご機嫌で \mathcal{O} デイ 「は 何日 いま ズ」とかミス か後に、仕事中にちゃ い分りま 今度また良か した」と言わ チル ラシー ったら誘 楽 れて、 λ ゲ 11 って下さい と言いま · 感 じ ーム」や その \mathcal{O} 日 をガ は ٢, た 貴 ユ

二年の 安岡さん以来、 九 年ぶり に貴方に彼氏が

出 لح は 色 \Diamond き立ちま

誘 で に応じ ろうと思 う カ か いまし \mathcal{O} 誘 仕事 9 僕も仕 た。 中 てきましたね、 12 高 事を早く 井さんは貴方 終わ 貴方 が に、 らせて後をつ ****\ 今日 1 で す は Ĵ どう け

近 は貴方を連れ 2 ピ くだと他 男 ル ので、 た。 の人と一緒にいる貴 \mathcal{O} 上 何だ \mathcal{O} \mathcal{O} 方 て東口 従業員に見 に かドキドキ あ る居酒屋 繁華街 方 9 か \mathcal{O} ました。 後を ると思った の方まで歩 「月光館」 つけ あ る ま کے 1 \mathcal{O} \mathcal{O} いう か り て、 は 新宿 店 高 新 宿 南 通 さ り だ V) \mathcal{O}

戻 減 の頃は 僕 9 も後 座 て、 か かあ 頃だ 5 度緊急事 混 りま 、僕は った 人 でま で 貴 ので、 せ 態宣言が 工 たち た で ね 居 とは 酒屋も た。 解除されて、 タ テ 大 乗 分 ブ 時的 ル 0 席 7 れ 感染者 に 入 · 昔 は 力 り 空きが ウ の活気 ま 激

聴 が ても聞 が でち 周 たけど会話 り Þ き取 \mathcal{O} لح 聴 音も だ け カン 7 やろう 緒 は 貴方 に拾 と思 \mathcal{O} 0 7 ス 1 7 まう ま ホ 12 仕込ん た。 \mathcal{O} とこ うる だ

も高 独 カュ 井さん 高 て言っ カン \mathcal{O} てま 低 貴方 五 年 てよく 前 <u></u> に 緒 離 通 初 婚 る お \mathcal{O} 店 で のデ 7 が 比 較 出 来 的 た 聞 き な

なるし、 そん でした。 それに対 \mathcal{O} に、 なことにな それ みたいなことを言って、 は て貴方は即 もう ったらい プ 口 答は 11 ポ ですね、 しな ズ まんざらではな カン 高井さんなら る ったけ \mathcal{O} لح れ 同 ど、 じ です 頼 本 様子 りに 当に

と高 演 店は高そうだ う ľ 方が先に立 Ĵ でも正直 一井さん てい りも \mathcal{O} 後 る様な感じも 何 そろそろ結 日 は なところ、 った、 どんどん良 0 カン た \mathcal{O} てまた焼き肉屋さん 意地 で僕 婚相 貴 しま 悪な 方 は 1 の楽しさは、 入らずに帰 手を決めたい 雰囲気に た。 1 7 方をすると、 な ŋ ^ 9 ま 純 行 という現実問 7 粋な恋愛とい いきま って たが 楽 した そ しさを 貴 \mathcal{O} 方 題

思 望が見え 焦 いうちに ま は た。 きっ 隠 子 る 様な、 供 とか家 する接 と高井さん 11 0 高 てみ 併さん 庭を し方 れ 作 だ ば \mathcal{O} . と 思 方でもそうな りた も早くまた結 11 0 1 か 1 ました \mathcal{O} いう様 安岡さん 婚 λ じゃ な、 んがもう て、まだ若 そんな な 1 少 展

いう 井さ は 内 お こが で は 物 ま の言 打算的み 方 で す た か凄く ね 11 な、 丁寧で優 1 やそんなことを僕 1 λ だ け が n

とはお ま せ 貴 方 は び 職 た。 にも 場 で 出さず、 は高井さん 勿論村、 とそん 永さん な 関 に 係 ŧ に 何も話 な 0 て てい

何とな と貴方が 、雰囲気 永さん でも で分 は きっ 一葉を ったん 交 Þ る 人だ で ところを ようか か 5 見 井さん ħ

さん 交わ 永さんと そう思 ヤ 貴方が だとすれ は時 は思 した様な、 して楽しん うと、 々 仕事中に交わ わ 誰にも ば な 会話も盗 けれ あま 僕は でいましたね 他 の皆 聞 こえな 聴 <u>ل</u>ر 村永さん りにも気 の前 して している高井さんとの会話も、 きっ とでは違う、 いましたけ 11 と僕 ところでちょ \mathcal{O} の毒な気が 胸 想像 を全て ħ ٢, してし 親しげな言葉を 0 理解 とイチャ 貴方と高井 る ま 通りな います。 7

近くな 震え を 後で村永さんの ま 長 していたけれ 村永さんはそんなこと全然気付 いかと思 した。 とって、 ていたり、 い年月をず っていく います。 貴方は全く気 目の前で高 のを見 ٢, 話す声が聞こえる 声 つと貴方を慕 の調子に明らか でも貴方と高井さん 7 付 井さんと貴方の距 ** \ る **\ のは、 って仕事 なか に ٢, いて さぞ辛 動揺 をし 言 9 11 葉尻 な が \mathcal{O} 感じら 離 カン 7 \bigcirc S 11 がち そ が 様 0 きた村永さ どんどん しょ V な そ話 物言 ょ j た 0 \mathcal{O}

進 そんなことは うと きま 近く う話 · 住 ん たね。 お構 にな でい いな 高井さんはその頃都営新宿 りま たけ しに貴方と高井さん したね れ ٢, 今 度 一緒 部 線 屋 間 を 柄 \mathcal{O} 西

だ貴方たちは出 **会** って二ヶ月も経 0 7 1 な 1 とい う

考え る 暇 僕が二人 もな 1 くら \mathcal{O} 仲をどうや 1) に展開が早くて、 2 7 引き裂 とても焦 1 7 やろう りま

方 の方はそれを察 た \mathcal{O} 側 しま 永 さん ことがあ に した。 いる時 も段 に りそう Z 何 追 カン 1 な 言 詰 何 素振 ŧ, おうとし 8 5 11 わ りを感じま れ せ 7 な ても言え た 様 \mathcal{O} した。 で に 避け な しよ 様 う でも貴方 いる

ま るうちに うする 高井さんが貴方 た。 ルを見て、 の準備ま そうこうするうち トを探 たね。 僕 カ のカ という話 で始 し始 貴方はまだ物 背中に縫 メラ 貴方が捨てる物と持 \mathcal{O} 8 めて、小 が に 部 て な 屋に に、 1 目 って、 て、 込 遊 件も 田急線 が λ 貴方と高 である あることに気 び あ に来 決ま そして高井さんが弄 夜 \mathcal{O} クマ 沿線 って行 は 井さ 0 て 仕事 荷造 $\bar{\lambda}$ \mathcal{O} とかを検 付 ヌイ が な は 物とを分け り 終 1 11 てしま 中 緒 グルミをど わ 索 \mathcal{O} ダ 引 2 7 てい ボ る ま 5 越 T

ね。 たので、 電池を入 そして中に た。 さすが 替え 堅 に る 11 ほ 物 度 が 0 12 れ 縫 入 が酷く 9 0 た て ŋ 1 な 解 る ことに 9 1 て た いた り . も気 を繰 \mathcal{O} で が り 返 付 ょ Š 7

とき 高井さん が貴方 けど、 貴方は に 何 か そ 仕 掛 んなことない け が あ る ヌ とい 1 グ って、 ル ? な \mathcal{O} に ?

であ 0 力 メ ラを 発 莧 され ま

ても 届 聞 λ いまし けようと言ったけど、 それが十二月十三日 それを見た貴方は気持ち 誰 っと悪いことをしてくるんじゃな ても、 かこんなことをする た。 さっぱ り心当たりがな のことでした。 貴方はそうしたら犯人を刺激 相 悪 手 1 は 思 1 1 とい 当た 1 高井さんは警察 かと言 が 0 てい 0 、ました。 て怯 高 かと 井さ に

まし て いたら でも高井さん た。 余計に危ないからといって、 は、 これ は 間違 1 な 警察へ 犯罪だ 電話を掛 カン 5 け 0

聴器 イクも発見され 時間 の専門家 t しな \mathcal{O} 人もきて、 いうちに てしま 警察官が二人 いました。 置き時計 に 来 仕掛けたカ て、 そ \mathcal{O} メラ 後 で

井さんはどんなことが カン のことに貴方は呆然としてい ったですね あ 0 ても貴方を守るとか る様 だ 9 た け

掛 け 貴 け替え 方 7 は て貰え 事情 次 \mathcal{O} を説 日 る \mathcal{O} 様 朝 明 して、 一番 頼みま に ア 実費でも良 パ 1 の管理会社に 1 \mathcal{O} でド T 電 鍵

動産 訳 それ 配 だ 屋 も早くて、 か 子という で僕が持 ら、 専 甪 \mathcal{O} そ は 0 \mathcal{O} 居住者 \mathcal{O} 務 日 、る貴方 店 \mathcal{O} うち t が 変わ 決 \mathcal{O} に ま 付 る度に 部 って 屋 け 替え \mathcal{O} 1 合鍵 雄を付 る てし \mathcal{O} は 使え ま 替え ょ ま う

くなってしまいました。

ちょ ものかと、自分 と考えました。 でもこのまま貴方を高井さんと倖せになん 僕 つ は 力 と復讐どころではなくなってしま メラが 見つか の思 いを喚起して、 った シ 日 ツ ク どうに で 動 揺 9 た てし かしなければ、 のだけれど、 てたま ま る

況にな てしまうかもしれ てまた村永さんも、 って いたのではな な いと思 11 きっと貴方が高 でしょうか って、 決 井さんと一 断を迫られ

ます。 まうかもしれない、このままでい 9 が実らない 7 は、 気持ちを伝えることもせずに、このまま取られてし は僕が 心から恋をしている人が、 のだろうかと、 のだとしても、このまま何も言わずに、自 カン つてそうだ 追 ったから分るん 11 詰められ 他の人の 1 のか、 てい です。 た 物になって 例え自分の のだと思 ま 分 恋 さ

祝福 永さん 持ちはお 年 だよと思 でも の間、 村 永さん < 様 貴方 な、 る いま 11 びにも出さずに いような、 \mathcal{O} らしたが、 なら、 いわ の側にずっ は んです。 気 が小 ゆるイケ 僕はこ そ さ でもその一方で、 のことで といながら、 1 ていな れ た訳だから。 カュ 5, ま で 僕 何しろこれ けど心 復讐心 の心も救わ 貴方に対する 貴方がも を忘 更遅 \mathcal{O} 優 ま すぎ れ + る る 気 五.

カン ŧ た んです。 しそうな 0 7 1 れ ば、 貴方が 視 力を失うこと

たのが、 貴方と二 方に気持ちを打ち明 すか」という質問 え ツ 1 貴方に「結 人だけにな ま のス マホ カン で した。 から聴 婚という物に ける勇気がなくて、それ 僕 った時に、 は そ 1 \mathcal{O} 7 時 P \ \ \mathcal{O} ました。 村 0 っとのことで口に **,** \ 永さん てどう考え 村永さん の言葉を貴 でも厨 房 は 出 貴 ま

て、 張って更にこう言 貴方は 適当にはぐらかそうとしました。 もし良 い相手が いました。 いるならその うちに、 でも村永さん لح カン は 言 頑 0

ならギリギリ十歳までかな、 くらいまで許容範囲 「もし年上の人と結婚する ですか」と、そうしたら貴 のだと と言いまし したら、 たね 歳 \mathcal{O} 方 差 は は 年 何

を言 ギリでアウトです。 ギリ十歳 の 時 たか いうことですよね。 貴方は三六歳、村永さんは四七歳でし まで、ということは十 ったのだろうと聞こえまし ということを貴方は村永さんに宣告 僕には貴方がき 一歳差 た の村永さんはギ 0 ぱ た。 りとそ ギ IJ IJ

異性 さん 須賀健二だ やはり村永さんの夢は 貴方 った時 には 人間を男性としては全く意 眼 中 同 年 じ様に。 か った 叶いませ \mathcal{O} で んで 識 + た。 八年前 い男 して 貴方は のこと 7 な $\mathcal{O}_{\mathbf{k}}$ 1 僕 \mathcal{O} が

ていま ていた 僕は 人物だ た。 身を引 貴方 そ が の本当 からです。 井さ 7 ス の理 W } で 由 は 力 なく は 村 行為もやめ 村永さん 永規 弘は僕自身が を よう 選 を思 演 た 0

容姿を変え 五年に貴 た。 僕 村 の本 永 名は前 方に傷 規弘 て貴方が とし にも書 つけ 7 働 られ ア V > ル 11 て、 た通 ていたタ イトに応 そ り須賀健二 \mathcal{O} 翌年の二〇〇六年 口 募し ウ V ですが て、 ス トラン 採用され 調 布 に 店

消 永規弘とし います。 話を十一 て、そ 七 て貴方 O年前 に戻 年後に人相やキ \mathcal{O} 前 して、 に 現 本当 れたところか ヤラクタ \mathcal{O} マラクターを変えての僕が貴方の前から 5 説 明 ら姿を 7 た 1 村

る為 視 したり会話 全ては貴方 に、 もつ と近づ を に 盗 復 聴 讐 いて する する為 だけ で した。 でなく、 と思っ 僕 た 復 は 貴方 です。 \mathcal{O} 手段を考え \mathcal{O} 行 動を監

そこで自分 \mathcal{O} 素性 を隠 り込むことを考えま て貴方が働 た。 いる お 店に

変え 6 く貴方が カラオケ店 Þ 思 僕 7 \mathcal{O} 顔を覚えてい り すかもしれ ても、さすが で顔を合わ 話 し方 な せてしまった一 12 とは思 と思 一緒 感じを変え に 0 P 事をする 7 件で、 なけれ いま は り名前 様 た お

らないと思いました。

痩せ 須賀 う と思 てい る 回 ま ま く貴方と出会 た。 ました。 て貴方に接 まず体 調 0 重を 布店 た 7 時 減 いた頃からは五キ \sim \mathcal{O} らそうと 容 面接に行 姿と は 思 違 0 た 時 う 1 は 毎 口 日 僕 が 食

ま た 縁 髪型を変えて、 た。 州 眼 \mathcal{O} 鏡 出身ということ を して、 短髪に 喋り に 方も僕が L て、 して、 美容院 小学六 大 分 弁 で 年ま で 金 話 髪 で住 す ことに \Diamond でい

え 演 ま てなる 性 やす 格 した。 ŧ ベ ****\ 作 · と 思 く 僕 ろうと ったし、 の嫌 思 いま 1 な した。 タ 僕自身と差別 イプ \mathcal{O} 全 性 格 \mathcal{O} 化 别 に ける為 人 12 てみようと思 した に 方 が 考

な方 真 面 田 を思 目だけ 舎者 では 様な、 な いまし で、 僕 ど使え け 決 た。 れど、 から見てもじれ て怒らな な 1 全体とし 0 僕自身も決 11 性 ったく 格 て生きて 弱 な る カン 1 7 様な ア わ ること グ り 覇 気 ブ

借 た名前 た頃にイ 実は村永規 です。 ネ 弘 ツ کے \vdash 1 \mathcal{O} う名前 揭示 板 は、 で 知 僕 Ŋ が 合 引き籠 0 £ カン 5

カ 署 申告とかで、 本籍 0 ても の住所 給 偽 料 名 を振 と名前だけ を使 り うと 込 む は バ 実在 座を作 7 しまう る 時 か

あ る 0 た _ 要 とも が あ あ る り 思 ま せ 11 ま λ た。 僕 ば そ \mathcal{O} 人とは実際 に は

そ 月謝 僕 礼とし は 全 一く別 万 の村永 円を支払 規 0 弘 さ W ます。 کے 1 う に は 今

出 から二つ下げて設 実在 う当時三二歳 する履歴 \mathcal{O} 村永さんは 書に は \mathcal{O} 嘘 架 定 僕 空 を書 しま $\overline{\mathcal{O}}$ した。 りも 11 人物を作 てもバ 年上なり こう りま な て僕は です と思 た。 が 村永 11 お 僕 \mathcal{O} 歳

それ とは 思 か こんなことが たも貴方 ŧ 驚 切ってなりき いた れませ くら ^ の恨みによ い、 上手 λ 0 ちや てみると、 1 < んと演じることが って引き出され 、だろう 自分にこ かと恐 しんな能 たエネル カン 出来ま 9 た け 力 ギ した。 が ある ど な

に住 と思 らわ 本 員 年齡 「は東小 λ ٤ ざわざ調 布 でい 店に \mathcal{O} 東 他 金井 配 ることに T 属 金井 £ ル 布 され ま 履 \mathcal{O} でア 実家 カン 歴 書 5 ま だ か に \mathcal{O} \mathcal{O} ら 二 け は した。 通 バ 面 り道で、 接に行 嘘を書きま イトをしに れど、それ ケ月く 0 た 調 5 来 だ 布 1 \mathcal{O} とそん る た。 経 カン は ら近 \mathcal{O} 0 は 現住 貴方 た 不自 な 頃 11 遠 飛 所 で 然だ くか 新 す 田 給

た 店長か \mathcal{L} 50 とと、 5 کے 前 11 う答え ک カン 5 \mathcal{O} 店を選 \sum_{i} しま チ λ エ だ理由 した。 ン \mathcal{O} はと聞 ス } ラ か れ て、 が好きだ 家が 近 0

分弁で喋る設定として、 九 州 カン ら東京 ^ 出てきて就

た期 た、 職 \mathcal{O} 気持 間が と話 ちで話 あ しまし لخ る \mathcal{O} で、 リス すことが まん それは ラされ ざら嘘 出来ま 実際 した。 でもなり 12 ばらく引き 八年も引き籠 村 永規弘と £) ŧ 0 9 7 11 1

だ、 る為に、 に容姿を変えて仕事先も変えてしまったことを納得させ と説 から実家 イメー 明 ま した ジチ で一緒に住 エ ンジ ん て 新 で いる父と母に い人生を踏 は 3 出 僕 が 急

れ 後 ま 々都合 て貰 た働 調 布まで が ったから、 < 悪 お 行く 店 1) が ことが出 調 \mathcal{O} かという理由として、 布 ということにしておきま 駅 てくると思い、 に あ ることを伝え 何故 知 7 わざわ り お た。 合 カン ****\ 3

をした その後貴方が た。 ったことに 1 カン 5 関 کے 渋谷店、 いう説 しては、 明で 新宿店と異動する 気心 不自 \mathcal{O} 知れた 然 とは 思 人と一緒に仕 \mathcal{O} 9 を追 て

親 なにせ しては僕が あ 僕 り がた は 長 いと思 外へ 年引き 出て働 籠 0 7 £ 1 1 2 た様 て 7 ** \ 心 るとい です。 配 を か うことだけ け 7 1 た \mathcal{O} で

健二 に貴方に そ کے \mathcal{O} 月 で ŋ ŧ 日 が 相 P \mathcal{O} では 経 僕 対 2 ぱ 0 り、 いるけ 7 顔 7 を覚 話 る す 調 れど、 え 布 \mathcal{O} 7 に 店 緊張 容姿を変え 1 で な 働 でも同じ しま \ \ き始めた こと た。 は て、 理場で 時 分 貴方が キャ 9 7 働 ラ た 須賀 ク 年

いうこと る 時 が は る 長 カン 間 れな 緒 11 7 کے 安でし をすることに た。

体重も ま 健二と結 ことを一 ったけ は つけて考えることは でも貴方 憶 年前 ば れど、 び の片隅にも に らくし つけることは は に 全くそ 貴方は 干 て元 ア 残 あ 微 に 0 気 戻 ガ て 塵も村永規弘と須賀健二とを結 りません 配 カン 1 9 て、 は な でア たです あ カン その りま で 0 した。 たということで せ まま増え続 λ P 落として てい は り僕 た 0 てし 須 僕 賀

出来る ま は て、 干 た。 何でも アバ だ 仕事を教わる立場 け 聞 ガ ヘイ < 人間 \mathcal{O} コラして、 時 とは という印象に持っていこう 逆に、 になりま 貴方を立てて、 今度 した。 は僕が貴 僕は村、 貴方 方 永 \mathcal{O} \mathcal{O} と思 後 う ک 7 لح 11

を崩 な る僕を年長者として立てようとしても、 \mathcal{O} 11 ですけ んな さな と恐縮 村 様にしま ん」とか 永 ていま 対 て貴 1 た。 した って平身低 方 が は、 `` 自 どんなに貴方が村永 頭 分 して、 \mathcal{O} 方が 僕は 絶対 ず 0 とん に低姿勢 年 で で あ な

\)\\) た 7 僕 髪に 髪 に そ は \mathcal{O} 貴方が 毛も、 戻 \mathcal{O} まま しても平 染め ず 村 9 永 気 続 کے け 正 で 短 した。 髪 体 る で に \mathcal{O} が 気 金 髪 付 面 倒 に か な 7 لح 0 11 よう て、 1 う自 何 思 信 年 0 7

した。 することに 7 メキ 僕に が蘇 て僕 は な は 4 り 0 Ź また ま てきま 4 た。 る 貴方と一 した。 あ 間 \mathcal{O} 近 干 ア 緒 で見る貴方は に バ 狭 ガ 1 厨 で出会 房 P \mathcal{O} は 中 り で 0 た 素敵 \mathcal{O} で

ジ を取らな ル 1 でした。 のある でしか見ること 今までに好きだっ 11 僕と同 くら 顔 \mathcal{O} 生物 出来 形が たモ な 整 であ 1 = 2 る生々 ている ア ドル 娘 しさが \mathcal{O} とは に 女 \mathcal{O} 違 子 あ 動 たち 11 画やステ 0 て、 息づ と引 か

は、 کے لح カン 間近に会うことが な でも、 綺 麗だ、 素性を隠 てやりた い物、それどころか 貴方は 好きだと思え ている 衝 同 動 も増 出 空 来たことが、 間 だとし \$ ば思うほど、 に では恨 てきます。 1 7 ても、 ŧ, みの 僕に 凄く嬉し 対象。 地 こうし は 獄 ま \mathcal{O} 0 それ 底に てま カゝ た 0 たです。 、突き落 た貴 でも 手 \mathcal{O} 僕 届

って、 僕 だったの にも一 僕 にとって貴方は リア 時 から。 は親しく に言葉を交わ なれ 他 \mathcal{O} た間 女 すことが \mathcal{O} 柄だ 子とは違う、 ったのだ 出来た唯 カン 何 50 一の美 ろ 僕に こん 少 لح

え、 貴方が僕 モアバー 度は僕を必要としてくれましたよ を 頼 ガ りに で してく は 仕事を覚える為だ れてた ん だ、 کے いう幻 ね。 け だ 時 0 想 た 々 僕 کے が に は、 1)

も感じ て同 時 に、 てい な 僕 V. を絶望的 僕 のことを覚えても に傷 0 け た ことに 1 な 微 塵 . こ と ŧ,

ツ ツ لح は 5 たが煮え り返 0 7 1) ました。

進ん い知らせ で な と思う 1 てやりた という と同 時 ことを、 いと思い に、 僕 ま \mathcal{O} 何 年 時 た。 掛 間は か あ 0 て \mathcal{O} でも、 時 から一秒も 貴方に

年 様 て 2 上な 僕 と不審に思っ いるうちに、 が演 なりましたね。 Oにどうしてそこまでペコペコする じる村永と 貴方は村 ている様子でしたが、 いうキャラクター 永として の僕を信 僕が徹底して演じ を、 貴方は 頼 \mathcal{O} かと、ちょ 当初

健気に頑張 いました。 いなと思って そしてまた、 って 僕がいうなんておこがまし いま いる姿を見て、 貴方は仕事に対して本当に一生 した。 僕は本当に応援 11 と思う 一懸命 てあげ け بخ だと

たり、 て仕 僕はとても倖せ せん」と そして仕事覚えが悪くて使えな フに怒られた時も庇ってくれた 事を教えてくれま オー 謝って ブン ばか で火傷 た。 りいましたが、 したり、 した ね。 村永は 失敗 りして、 い村 ば 貴方は優しく、 カン 才 永 りし に、 ダー 村永として 親身に て「すん を間違え 堤 ま チ 0

うけ て貰え 様 論貴方は村永に職場 に な 僕はこう 0 んだと思 て貰 いた いま て村永として い、 した。 \mathcal{O} 部 という気持ちだ 下と L 1 れ て ば、 しっ 貴方 · カン た り仕 に \mathcal{O} だと思 . 事 が

も貴方 \mathcal{O} \mathcal{O} には 自分で仕 向 け 7 お 1 7 何 です

線を保 ここでは 上から見下ろし それ 0 可愛く کے 頭 が で 1 後輩 様 も僕は えば 蔑 という立場だ て使え て可愛 たま 4 一緒 \mathcal{O} たけ りませ 持ち V に · と思 仕 れ 村 事を出 ど、ごめんなさ ŧ 永 んでした。 から、貴方に対し 内 っていま 在 · 対 来ることが する優越 7 した。 1 る لح 感 1 貴方 倖せ て下 心 思 \mathcal{O} 1 が 中 だ ま う か 可愛 では ら目 った。

ユ 理 貴 \mathcal{O} 方 か て出すことが 通 5 りの 親 身 に レシ な 出来る様にな ピを覚えて、 0 て教え て貰 りまし 何をオ ったお た。 陰で、 ダー され 僕 は ても メ

干 る充実感があ ア 僕 がここで働 ガ りま で働 た。 てい は貴方 た時と同じ、 \sim の復讐 の為だっ 仕事をこな たけ してい れ ٢,

から、 ってい 7 の自信をまた持 僕 てい は大学を出た時 ちや な たことは 1 んと働 自分 では お つことが出 就 話 てお しま 職 何をすることも出 金を貰っていると に 挫 したが、社会 来ました。 折して、 三十歳まで 来 \mathcal{O} な 1 何 う、 の役 1 無気力感 引き に も 立

ったけど、 頃 \mathcal{O} 調 ホ 0 布 店は 調 ね 理場 ル バ 1 \mathcal{O} 堤チ トも 気持ち ・フは嫌 \mathcal{O} 良 なところが い 子 が あ

か は 辛 日 カン 朝六 村 9 たけ 時 れ に起きなけ ど、それでも仕事 てですが、 れ 貴方と仕事を出 ば なら に な 行くの < 来 が 寒 嬉 る 日 \mathcal{O}

が楽しかった。

そんな 本当 日 の自分だか分からなくなるくらい 々が 続 1 てい くうちに、 僕は 村永と僕 でした。

きたいことや、 貴方は 村永にも話 ま た、 将 ミスタ 来 してくれましたね 地元に チル 戻 ドレ って洋食 ンが 大好きだというこ \mathcal{O} V ス 1 ラ を 開

ぶ様に相 したね。 日 ンしました。 僕はそんなことは既によく知ってい ただ恋愛のことを除 づちを打 貴方は嬉 つて、 貴方 しそうに何でもお話してくれま いては。 の話 には全肯定でリ た カュ ら、 貴方が ア クシ

て心を開 そのお陰 性としては 貴方の信頼を得る為に、村永としては 11 で貴方は村永をとても気が合う目下 切意識 れま したね していな 0 いことを強 貴方 調 していました。 のことを の友達とし 異

を吟味 ってい 貴方が住 なの 写真 で て貴方が 置 僕 クスと白 きっぱなしにな に対して貴方は隙だらけでし 1 ま \sim 2 いましたが 0 た阿佐 て貰 事 で僕が ケ谷のアパート イミング 取 カー名と製造番号で合鍵屋さん の置き時計 休 り寄せることが出来た それは貴方が メラと盗 っていたポ みだった水曜日に、 で 聴 器 仕 掛 \mathcal{O} を仕掛 けま チ 合 休憩に入 込んだことは 「鍵を作 から鍵を出 した。 僕 ける場所 のです。 0 度貴 た て持 配 後 頃

にも書きましたね。

学生だ がら、 の常田豹吾さん 7 た志島 だ では です。 僕 0 た安岡 は 孝弘 職 須賀健二とし 場 1 君、 健太さん い人だ では 永 0 たち 規 て貴方 柳 で来た 弘 کے 川智則さん \mathcal{O} 私 お 口 付き合 生活 ツ \mathcal{O} ク 日常 を監 高 1 口 級サラ を邪 視 演 ラ 魔

僕は お \mathcal{O} を取 で 休憩 出 年 来ま · に 貴· ŋ 出 に入 して、 方 た。 が った時に事務 ス 盗聴 7 1 ア プ ホ 所 リをダ \mathcal{O} 12 買 口 ウ ツ 11 換え 力 口 から た 時 F 貴方 は

はバ ました。 あげると 囲を盗聴 2 て、 貴方 てそ タ できる最新 0 後二 て操作 ス デ マホ に貰 にゲ 一三年 版 した時 \mathcal{O} 盗 った義理チョコ 聴ア に、 ムア \mathcal{O} ホ プ 遠 ワ プ リを仕 隔操作 リをイ 1 デ 込 で 起 お むことが ス \mathcal{O} 動 返 時 しだ た 出 僕 周 来 7

タがそ 引 き継 のまま移行された 九 年に が か と思 れ 貴方 0 たけ が そ 新 \mathcal{O} れ まま使う \mathcal{O} 7 で、 11 ス 盗聴 使 7 ことが ホ 0 T 7 買 プ 出来 リも た 1 換え ス ま 新 7 ホ た 時 ス デ は 7

貴方 は あ は \mathcal{O} 調 頃 理師とし か ら貴方 て働きなが \mathcal{O} 生活 を ほ 5 ぼ 都会に生きる、 全 7 把 握 7 1 ま とて

を開 して 一歩進む 可 職場や学生時 の子 という夢 子。 んだ、 煩 代 が な かすみそうにもなるけれ の友達と飲みに行くのも好きな 日常 と思って \mathcal{O} 中 で、 いる。そして時々恋も 地元 ど、一歩 ストラン

藤が生まれ 弘としての従順な僕と、 そんな貴方を観察 てきま した。 しているうちに、 貴方を恨む須賀健二とし 僕 \mathcal{O} 中 では村、 永

男女 だけでも て 僕 の関係 いけれ のまま村永として、 ば 11 でなくてもい いじゃない 1 いじゃな か・・・・と。 いじゃないか、 いか、と思う様にな 貴方 \mathcal{O} 同僚 として 仲良くやってい ったんです。

としてではなく、 もなれる気がしてきたん 村永として貴方を見ているうちに、 本当に です。 人間として思い遣るだけ 貴方のことを異性 の心に

に並んで観ることができた そんな風に過ごせた数年間の月日は、 一番倖せだ は 生の宝物で 緒に仕事 ったと思 をして、 います。一緒に映 「万引き家族」 たまに一緒 僕 画館 に遊 \mathcal{O} کے 人生の中で、 客席 $\mathcal{O}_{\mathcal{C}}$ 横

健二として てしまう 貴方に彼氏 \mathcal{O} 復讐心 です。 が蘇 が 出 り、 来る気配 貴方をおとしめ があると、 途端 る算段を考 須賀

貴方から絶対 の信頼を得られるくらい 生懸命 仕事が

れる えばこそだったのです。 できたの 日がくると思 \mathcal{O} Ŕ Ŕ また貴方に対して仕 11 つか つてい 来るべき、 たからです。 貴方を地 事の そ 同 獄 僚 \mathcal{O} とし 日 \mathcal{O} 苦 の為にと しみ 思

と思 ではな 誓った出 愛を告白したら、 でもも で ŧ いま 1) いした。 カュ し告白したら、 来事がまた起こるに違いな 0 とい か、 う考えが意識に浮か 受け入れ ŧ L カン あ たら、 てくれるということも の忌まわ £ し村 いと思い、 ** \ んできまし 永とし 貴方に 出 7 復讐を 一来ない 貴方 ある 12

を。 永と でも僕は、ずっ て長年の思 کے いを口 悩 λ に で 出 **\ して、 るうちに決意しまし 貴方に告白すること 村

た。 ということでし 許容範囲ですか 口にした言 村永には一切何 顛末 葉 は先 た。 貴方は結 に書きま という 可 能 間 婚 性もな いに、 た。 するのなら年齢 村 永が 十歳までと即 Þ 希望は微 0 差 کے は 絞 答 何 ŋ しま 歳 まで

斐 魅 万に る です。 り貴方は僕や村 柳 ける男より、 田さ んや安岡さん 永 ワ 1 \mathcal{O} 様に、 ル ドな常田さん 高 計さん 人 は良 \mathcal{O} 1 様な男 とか け ど男性 頼 的 り 甲

やめて村永として貴方と倖せに な れ る \mathcal{O} なら、

らな と思 ったけ れ ٢, 貴方 に は 僕 \mathcal{O} 真心 が 分 カン らな 1 伝 わ

目的であ 貴方が高井さん 僕 る復讐を果たさなけ は 否応 <u>ك</u> く決意 緒 なる ば け ならな という れ ば と。 5 \mathcal{O} なくな なら、 当初 りま

隠 ま 貴方と高井さん い、そ しカメラが でも今回は、 \mathcal{O} 上貴方 発見され の結 そんな悠長に の部 婚 7 屋 へ向 しまいました。 で ク け 計画を立てている暇 7 た計画がどんどん進ん のヌイグ ルミに仕掛 \$ で け た

を立ち上げてから、 あ の日僕は、 仕事が終 そ \bigcirc わ 事態を知りま って自宅 に戻り、 た。 自室 \mathcal{O} Р

を説得 が ク 置き時計に仕掛けた方 7 のヌイグルミからカメラを取り出 て警察に通報 する様子を見ました。 \mathcal{O} 力 メラとマイクで、 怖 が 高井さん る貴方

たね しま そ はスマホに仕込んだアプリから聞こえる音だけにな イクも発見されてしまい そうこうするうちに置き時計に仕掛けたカメラと 夜 ま のうちに警察が た。 来て家宅捜索み 映像 が切られて、 たい に 残され な りま 0

どう しようと思って ま 人にス せん 7 ホ た。 いた の盗 け 聴アプリ れど、 幸 のことも指摘された 1 警察の 人もそこま 5

でも僕は突然 起こ \mathcal{O} か 理解 ことにとて 出 来な もショ いくらい ツ ク でした。 で、 しばらくは

貴方は 貴方 ラが出て来たことも話 調子 <u>광</u> 警察を呼ん で貴方 7 日 のヌイグル 僕 で調 何 ? 7 カン てくれました。 賞 ら隠 な 7 0 ったら置き時計 11 かな しカメラ の?」と話 1 と思 き、 が 出て来たこと しか 普段 ったけれ からもカメ けま と変 お للح 5

貴方に頼 も複雑な心境でした。 僕は内 心激 りにされてい しく動揺 る んだと思 7 いたけ れど、 って嬉しか B 2 ぱ 0 た。 り村永 کے は

さん 報 て止めることも出来た ら貴方を守る為に協 しよ したら相手が逆上して何をする 本当は警察に通報する前に相談 村永としての僕は、 うがあ \mathcal{O} せ 11 りません で警察沙 汰 で にされ 最 \mathcal{O} なけれず た。 後 かもしれな \mathcal{O} 7 務 ばならな しま (x)か分らない として、 してくれ 0 いけれど、 た \mathcal{O} と思 で、 てい スト とかい れば いま どうに 既に高井 した。 通 0

覚えが ことは無 僕は貴 火がぶり返 方に、 カュ 11 とい 0 た 今までに のかと尋ねました。 ました。 誰か男 燃え始めた気が この時また僕 の人か 貴方は 5 しま 恨 \mathcal{O} 心 全く何も身に みを買う様 した。 \mathcal{O} 中で は な

7 警察 は こう 止 8 調 0 が てはもう無理だ。 僕 進んで、 くなってしまった。 に 調べが 発見されたカ 及ぶかもしれな もう貴方と高 と思 メラからの 1 井さ

カ 方 7 ん だ盗聴 T ブ りも 発見され

五 な 警察に 十歳 て、 逮 捕 僕は され 0 五 てしまう そ 須 賀 年 \mathcal{O} なこと 寄 健二と です。 りに は考え 貴方は 1 う 本 5 高 当 井さん \mathcal{O} 僕 力 と倖 今 せ 年

業用 ると 明するそう う ネ 復 僕は、 身体 響が T 貴方 上手 って、 に蓄積され で検索する コ です。一度に飲まなく ŧ であ 恋 か しも十ミリリ ٤ た相 な る て効果が メタ カ 手か メ 0 タ た場 たら残酷 あ る 合 ツ لح いうことも 捨 手 飲 別 手 何 |度も飲 段 5 メ でしまうと失 チル ま る、 分 した。 ア ŋ で と コ

頭痛 なるだけ てあ が二 めま لح 最 り まし 重に見え 初は \mathcal{O} 1 で が : 起き 腹痛 とく 普通 た。 たり に症 に 悪 お 状 心 酒 何 を飲 始 日 は めて、 な 嘔 症 吐 11 λ 状 そう だ \mathcal{O} 時 視 ほ 進 神 で لح か 経 す 同 λ で失明 目 が じよう \mathcal{O} 萎縮 が か 翌 と視 す す 日 状 だ 5

ることで、 そうです、 在 が 豆葉を実. 消える 必然的 僕 行 は最終 な う 僕 的 で \mathcal{O} ば は 姿も消えると は 貴方 ならな な に 貴 1 لح 方 思 いうことです。 \mathcal{O} 目 た 11 ま が 見 消 えなな た。 え 僕

思 \mathcal{O} で、 つ 飲 新 屋 合鍵を作 すが 込 らな カ 貴 方 紙 け は 部 n ツ ば 屋 鍵 りませ を変え れ ば 注 でした。 しようと まっ ワ 1

とは違い 出来ません てしま 職 は で さすが 鍵 で休憩する時 た。 の写真を撮 に警戒 t 0 が た 口 強 り製造番号を ツ 力 に 9 7 9 カン 知 る り鍵を掛 ことが で、 前

まう した ボ かも ヤボ T れな て V. いると今 そう思って凄く怖 に も警察 \mathcal{O} 捜 くて、 查 が 僕 焦 に 及ん ってきま で

ました。そして貴方には 0 ス て、 僕は考えて、 マスシ コルクに長 た。 ズン ボ 注射 針 たまたま人から貰っ り プ を刺 \mathcal{O} ゼント ちょ てメタ 0 と高 する کے 1 赤 11 た うことに ワ を注入 ので を ク

幸 発 スト も貴方 想は 微塵 力」 \mathcal{O} 中 \$ には な お 様 人好し 部 屋に た。 でマ 隠 力 ヌケな村永とを結 メラ を 仕 掛 け た

ってく Z あ りが ぱ とう り辛 ま た 時 لح 何 に 頼 \mathcal{O} 躊躇も り な な る \mathcal{O} 嬉し は 村 永さん そうに 受け だ ね 取 0

ホ 盗 力 聴だけ 僕 メ ラ 後 カン \mathcal{O} 復讐を見届け あ \mathcal{O} で、 りません。 貴方の 様 ることが でも音だけ 子 を 窺 出 う で は

僕 ば どう と思 12 0 7 カコ L いました。 て貴方がどうなる \mathcal{O} カ をこ \mathcal{O} 眼 で 認

僕の きて 起 $\sum_{}$ いま あ カン カン た 5 た。 赤 ド 毎 キド ワ H 1 キし 僕 ンを飲まな は てい 仕 事をし ま した。 カュ な った が \mathcal{O} 5 でも貴方は か 1 0 普通 貴 方 す 12 仕事 異 変 は に が

1 11 僕は脇 ま な た がら、 り、 た。 に 小 声で何 早くあ て、 カュ 高 \mathcal{O} 話 井さん ワイ して笑 ンを飲め と貴 0 た 方 ば り が する 時 1 1 々 \mathcal{O} \mathcal{O} T を苦 に、 1 コ と思 Þ タ 葸

井さんは二人で食事に行 そ ま した。 てあ と数 日 で ク IJ ス 0 たり、 7 ス だ カン デ 5 ートするんだろうと き 9 と貴方と高

む とも思 0 で て は カン しま な ŧ いました。 かしたら貴方 ました。 二人分の二十 な 口にし 1 でもそんなに入れたら だ た時にバ は 0 た あ -111 5 \mathcal{O} リリ メタ ワ 1 7 ツ を高 しまう ル ワ に 井 は かもし さん す + ħ 1 の味 ば良 IJ کے IJ が変わ 緒 カン ツ 1 0 た 飲

ば まう \bigcirc もそも復讐 は 気 の毒 カン かな [の対象 な とも思 では て僕 な ŧ 0 1 結 た 高 けれど、 構 井さんを巻き込 11 1 加 不可抗 減 で 力な λ で 5

W なことを考えながらも、 僕 は 今 にこ も警察が 来て逮

n 取 見 さ る さ 0 しまう。 て照合と ら、も た 隠 力 カン Þ メラ すれ 警察が貴 11 と ば マイ 方 思 V \mathcal{O} クに とたま 1 周 は 井 り 僕 \mathcal{O} 物 指 無 紋 カン < 7 僕 ら全 が が 沢 ま 割 て指紋を Щ り X 7

談と 程本 無 井さんと そ カン 7 そんなことも考え か、 いるらし 腰を入れ 殺 った。 して何も起きな したりと 0, また夜は高 スト 新居 て捜査 1 声と いう 一力 一井さん ことで か の 引 いまま て を て 0 た 1 が貴方 聴か 越 は な \mathcal{O} 0 な 僕は ても、 で 1 され すが のこととか か \mathcal{O} な、 毎日ス った 部屋へきて 7 相手に危害を とも思 \mathcal{O} 全く マホ で、 ました。 さ 結婚 で貴方 警察 λ いま セ な 式 気 加 ツ と高 た。 そ え ス 相

ンを開 だけど、 けている気 貴方はまだ僕 西己 は あ ŋ \mathcal{O} ま あ せん げたメタ 0 ル 入 り \mathcal{O} ワ 1

る 一緒 あ Š 12 は村永さん か 飲 とも むの は 想 何 か 像 ら貴 か 悪 方 1 いました。 ? が 貰 みたい った物 真 相 に だ 思 はどうだ カン ってく 5 高 井さん れ 0 たてのい

年末に ブ ラ な この頃の貴方はもう毎 0 0 たけ な年 て、 越 れ <u>ڄ</u> しを \mathcal{O} 年 この 過ご も貴方 年 は 年 は 高井さ -実家へ 実家に ま 帰 λ 帰 た 省する 省し と ね \mathcal{O} 将 ま کے せ W 向

月 井 さ 0 て、 岡 お店 \mathcal{O} は 郷 元 里 旦と二日だ 度帰 0 7 け くるとい が お 休 4 で

元旦に新幹線に乗って行きました。

き抜 と け 元 旦 何 音 夜 かな、 が ガ サゴ 聞こえて たね ソ と思 貴方 いま ている音 もしやあ した。 は とり が聞こえていた中 \mathcal{O} ワ でミ 1 スチ コ ル \mathcal{O} クを引 曲を に、 ポ

は その後 よ飲むん コ ツ プに注 だ と思いました。 トク… : 날 1 う音が 僕

たね て、 パリパ 貴· リと何 は 流 か て スナ いる音楽に合わ ック 菓子を食べる せて П 「ずさん みた 1 な音 で ま

も着々と進ん いま 僕の 頼も した。 隠 しい しカ でいる 高井さんが守 メラを見 9 凄 け くく倖せ ってく た 時は な気 れ あ てる W な 分なんだろう Ļ に も怯 結 婚 え な 計 画 け

でもこ \mathcal{O} 時貴方 た \mathcal{O} です \mathcal{O} 身体 \mathcal{O} 中 に、 僕 \mathcal{O} 仕 掛 け た 猛 毒 が 流

ブラ 遅くな しょ ブな 静 カン 直 カン 0 に てまた高 な クをし 0 また何 た は井さん て、 のは 電話 夜 度 か 中 か を の二時 ワ 5 電 切ってからもまたミスチ ンを 話 か三時 が 掛 コ ツ カン プ 0 に 5 7 注ぐ音が 1 き だっ た ラ

日 0 た 過ぎから貴 か 方の لح ド 部屋 丰 F 丰 \mathcal{O} 音を 7 眠 聴 れ 1 7 ま せん ま

屋 掃 除をした そ っちはどう りし 7 ? 11 る音が カン お 喋 て、 りして、 また高い 井さん 僕 は ま

あ ワ 1 ま をそ λ 12 は 飲 ん で 1 な 11 か ら平気 \mathcal{O}

す 5 ワ カン 頃 コ を注 に プ 何 が か テー ジ ユ ウ 様な音も に置 ユ ウ カ 料 ま れ 理 . る様 た。 7 な 11 る またボ 音 が } カン

S لح した きっ と飲 りで全部 メ とまた飲 タノ \Diamond 飲 £ λ 9 لح で でもら 飲 ミリリ いるんだろう \Diamond わなけ と応援 ッ ・ルを飲 れ を思 ばな 7 らな むに 1 \ \ ま ま は、 した。 1 ので ボ 僕 を は

お店 7 が あ に 年 来ま 明 0 たと、 け、 いせんで お 店長 店 が営業開 か ら聞 ね。 きま 体 始 調 \mathcal{O} が __ 悪 た 月三日 11 カン ら休 \mathcal{O} 日 1 貴

た。 ながら、 は でもまだ分らな B と思 どうなる っとワイ 1) 心 カ 配 効果 と思 して 普通 が 11 0 7 る高 に 現れ 風 まし 井さ 邪 た لخ \mathcal{O} た λ カュ カュ 引 な \mathcal{O} 様 いただけ 子を気 と思 カン ŧ

貴方はそ てしま \mathcal{O} 日 まし の夜 自分で ね 救急車を 呼ん で、 そ \mathcal{O} まま

7 高井さん ナで た。 見舞 は凄 は 禁 止さ 7 れ 1 まし 7 11 た。 会え 病 院 な に 行 カン 0 0 た け

は 仕事 会え は使え が終 な わ 状 な る 況 規則だ لح だ 毎 2 7日貴方 た カン か 5 5 仕 貴方もすぐには返信 に 電 方 話 な 1 と思 て、 う でも け

5 看護 け 師 さん ね ば ま ならな に付き添 や目 1 カン が 9 ら。 て貰 殆ど見え な 2 7 カゝ 休 な 憩 カン 電 所 話 に 連れ t 出 0

車を があ 恐 日 る る高井さん ことが で 貴方たち 呼ん ま 恐 井さんと電話 た みた り にも酷り ね。 とず で、 できました。 いにな \mathcal{O} の様子も常軌を逸 会話 世 0 と泣 田 って、 て、 で で 谷の救急病院に運び込ま 話 夜にな 貴方が す貴方 あ てるみたい 酷 \mathcal{O} い頭痛 日、 っても治まらな 運び込まれ 一月二 いる 目が と吐き気 で した 感じ 日 見え た は 貴方を れたというこ が 朝 時 あ して 1 カン ので救 状 況 症状 を

病院 で点 で 流滴を受 は急性 コ る と ル 中 11 毒とい うことでし う診 た。 断を受け ベ

部 症 僕 んだ です そ 致 だ がネ と思 身体 7 ツ る が ま ので、 で調 え した。 ま 間違い た、 た。 貴方 メタ なく は ひとりで あ ルを の 赤 飲 ワ 飲 ・ンを全

院 た救急病院 症 状 原因 新 が 宿 分らな 大学病院 と うこ 転 لح 院 しま で 最 初

大学 方 病 と見 出 院 E 会 来 t ま せ た。 7 は 禁止 どう か な 確 0 た カン 8 たか たか か 貴方の 5 0 どう 目

ぎて は \mathcal{O} お 空 店 \mathcal{O} 仕事 感 じ を た 1 Ŕ 貴方 のことが 心

たから。 つとこれ と僕は げたワ ば 焦 何 1 か毒物 が 警察に逮捕されるだろうと思 僕 7 11 \mathcal{O} ボ を飲 ま 生 ルか た。 \mathcal{O} 最後に だ 5 口 大学病 メ 能 タ 性 したことに 院 とかも考えられ で ルが 11 ろ 9 検 7 なると思 1 出 いたから。 3 I され な て 検 査を って 僕 き き す \mathcal{O}

室 は 得られ \mathcal{O} 僕 は貴 番号 を聞 ま 方 と高 せ け 井 な した。 さ かと ん کے 思 \mathcal{O} 電話 0 て 1 \mathcal{O} 会話 たのだけど、 で、 貴方 中 が 々情 る 報

見 舞 出 教えてく って た。 「すしか ならば 貴 に もう な 病室までは 方 れ たら、 1 は かと思 病院 病院 \bigcirc カン 0 階 7 村 \mathcal{O} 建物 永 な \mathcal{O} た とし 1 \mathcal{O} までも、 七 \mathcal{O} 外 だけれど、 て貴方に 四号室 から窓に手を振 何号室に 電話 に いると 高井さん いる て ると が 聞 カン な き

貴方に ら貴 そ 可哀 方 は 夜 想な そ 高 1 る病 井さん \mathcal{O} 高 だろ 井さ 室に は Š 向 λ 病 と思 カン 院 \mathcal{O} 姿を見る 2 \mathcal{O} 敷 7 1 手を振 ま 地 した。 内 こと に 入っ 0 た は て、 λ 出来なく ですね 建 物 \mathcal{O} でも 下 な カン

な でも僕は 7 ŧ た。 、る病室 もうこれ カュ 高 井さん へ突撃 お が 最 見 \mathcal{O} しようと思 舞 後 様 だ は 禁 カュ 5 大人 止 0 規 後 則 \mathcal{O} ま を ことなん 破 7 いら 0 て でも、 てどう ませ

思 はどうすれ 0 て、 ま ず は 方 下 兑 \mathcal{O} を 病 室 に 病 院 る 行 \mathcal{O} きま か 計 画を立 た

夕方 行きま 月七 兀 時に 日 金曜 事を上が 日 僕は 0 7 早 番 西 \mathcal{O} П 早上 あ が る りだ 病院まで歩 った \mathcal{O}

か入 患 ウ る 車 ます。 さすが 者 ンター 寄 建 物 ている患者さんとか 院 ジャ をチ せ てく は警備員 3 に 、る様な 入ると、 な と思 7 7 そこには外来で診 が あ エ 口 あ の病 11 ックして見 \mathcal{O} の上に上着を る患者 の人が タリ か って、 11 なと思 まし 院 は大き 中はす ピカ た。 のフ $\frac{1}{\sqrt{L}}$ 口 ビー ピカ 1 0 羽織 ま ごく広々 リをすれ 7 ** \ いるという感じでもな いろんな います。 した。 な 察を受け で大きな建物 で には長椅子 す ってい 9 7 ħ ば 僕も診察を受け 11 、る人は、 が座 て、 テ でも がたくさん ここまでは 来た人とか レ って て、 そ 正 ピ 面 きっ 長 いま 医療 程厳 1 カン と入 受 密 0 F 付 た ラ た 院 院 力 涌 7 で

だと 階ま 0 は受 た から、 付 くことが出 \mathcal{O} 奥に エ あ 来 りま ると思 ターに した。 ま 貴方 乗ることが した。 \mathcal{O} 病室 は

がな ま 落 ま行 日日 55着 ける様な気 しようと思 今 度計 t 画 ました。 を立 た て け 失敗 に仕 事

ろ 見舞 を 後 日 ね しよう る 止さ 手ぶ た。 5 7 出 り 頃 間 行 が き 良 る 思 た 0

 \mathcal{O} る患者 上に 個室 上着を羽織 0 リを · 乗 りま 鞄 0 した。 方 が 階 良 の病 てきたパ と思 棟 行 0 7 に着: 階 院 備員

人をちょ

しなが

た

方 何 行きま 食 わ め した。 顔をして受付 \mathcal{O} 前を横 切り、 工 V ベ タ \mathcal{O}

け を れど、 た 人生最後 工 消 う 努め お ター か \mathcal{O} 行 7 こと 何 事 が 分 気 到 が 着 開 様 出 き直 する 来 思 ま IJ 0 間 5 n で、 ま 5 ま ょ せ 周 と緊張 W 1) が 据 \mathcal{O} 僕 気 7

1看護師 僕 は さん タ 日 ま を 風 کر が到着 を装 違 押 ま 配 して、 た。 降り 階ま K ところを通 ・アを閉 患者さん ると 他に K て、 ア 乗 るボ りま 開 廊 9 下を 中 様 くと中 な方が タ で う る は焦 が 出 人も カン 来 り 出 5 7 行き先 白 な てきま が 衣 5

師 何 あ りません れ で 何 た。 カン 忙 そう で、 に 注

着きま の病室 した 番号 を見ながら歩い 兀 番 目 \mathcal{O} 七

ます。 ドキ 脇 ドキ 表札 しま |を確 した カン \Diamond る 貴方 \mathcal{O} 名 前 が 書 あ Ŋ

S 最初は っそりし 扉をちょ てい て、 0 まる とだ け で誰も 開 け 7 11 中 様 を で 覗 1 た。 7 み

方がどん 0 と扉を開 な風に な けて 0 中に る りま のかを見る した。 ここま \mathcal{O} が恐くなりまし できて

力 ですね 刺激を与えな 病室 ま ツ テ りま 0 \mathcal{O} てすぐにべ が 中 で た。 あ 仕切る様にな は る 力 のが 目 ツ 様 が テ 見え ド 分りました。 があ を と思 閉 って \Diamond 9 る いて、 て、 て、 ってよく見ると、 \mathcal{O} 二人部 かな、 うことな 照明も点 でもそこには誰も寝 その と思 屋 向こうにもう け \mathcal{O} の病室だっ ず で、 7 ま なる した。 ツ は 7

そこに貴方が寝て لخ か 暗 0 11 ま 顔 が 切 た。 り ょ く見えな \mathcal{O} 力 でも最初は テ 1 を \mathcal{O} 確か \Diamond に人 貴 0 方 間 が寝 る

で 村永さん 「こん にち ?」といって上半身を起こして は」と声を か け る 貴 方 は n

び上がる程嬉し 声を聴 か てすぐに僕だと分ってくれたことが った。

11 貴方は ていて、 目に包帯を巻 僕 の方を向い いていて、 てくれません。 起きたまま真正面を向

来たか て 入 貴方は ったんですか?」と聞きました。 0 たから、 「どうした コッソリ入って来ちゃ \mathcal{O} ? お見舞 い禁止な 僕は った」とい のにどう 「どうしても

て」と驚 貴方は いていましたね 「そんな、 凄 1 村永さん がそんなことするな W

た。 う今は殆 呼吸も苦 は今は大分収まったけど、 しさは大分収まってきたけれど、 僕は「 しか ど見えなくなってきて、 大変だったね、 ったと いいました。 大丈夫?」とい 最初はず~っと気持ち悪くて、 そして、 目がかすんできて、 とても恐 ****\ ま 頭痛とか息苦 いといい 貴方

包むみ カン と尋 僕は た ね 貴 ました。 方 が して握りました。 僕 \mathcal{O} 姿 貴方はいいというので貴方の手を僕は が見 え な ** \ から、 手を 握 9 7 ŧ

ことでした。 かそもそも女の子の手を握るなんてことが信じられ 8 ま てでした。 温 カュ い、これも僕が 貴方の手をつ カン たことの成果な \Diamond るな て

は自 分 いますが 口から出た言葉を、 「大丈夫だよ、 絶対よくなるよ」 我 な が らよ く言えた と言

っていました。

きま ほとんど見えなくな 0 7 すると貴方は 点滴とか目薬とか 「病 つちゃ 院 に 調 しても全然効かなくて、もう今 ベ ってるんだよ~」といって泣 て賞 0 ても 原因が 分らな

愛ら 涙を流 だと思 \mathcal{O} 貴方は自分で見えな しか カ いま して泣きました。 隠そうともせずに顔 った貴方がこんなに醜 じた。 1 か うう~と大きな声を上げて。 5 恥 をしかめて、 ず 11 カン 顔をして泣 \ \ لح 包帯 1 う ** \ て の下から とも いる 可

まで僕 恐ろしさもあるけれど、 いうよ この時僕は微笑 な \mathcal{O} 1 りも、 自 してきたことの結果なのだと思 分の 成果だと思 充足感に満たされていま W でい ま いまし しっか L た。 た。 りと受け \sum_{i} \mathcal{O} 時 した。 1 は 貴方を哀れ ました。 止めなけ これが今 それ ば JP.

親 ともな生 や兄 を カン カン らも恨 借 ら先、 活をすることは りた村永さんにも迷惑をか まれて、 僕 が 辿る人生、 貴方の 出 来な お 刑 店でア で 所 よう。 け に て、 入れら バ イトする為 もう到底ま れ 7 両

め ま してそれは き付 時も忘れることは け 今、 この 瞬間 け な ばと思 から始ま 1 だろうと思い いま り、 した。 この 先僕は カン

僕 勝 のだ った と思 のだ と思 いま いま た。 貴方へ \mathcal{O} 恨 みを

1 ろう け され だとす それ 何 ば 年 が 仕方 t 僕 刑務 が \mathcal{O} な 間 所 ** \ ことだと思 5 7 生 きて け 1 、ます。 るこの らな

そ そ でお て社会 てくれ こです の法 な 律 が \mathcal{O} 僕に罰を与える で、 僕が貴方に 罰を与え \mathcal{O} でしょう。 た。

詮 全 僕 生 わ はこれ 9 た後 で終わ のことです 0 た \mathcal{O} す。 \mathcal{O} 後 \mathcal{O} ことは 所

ことに 僕は か、 喜 だとすれ な が 手 びを感じます。 ります。 で 貴方にこの手紙を読 紙 を貴方は自分 ば る第三者 少なくとも僕と貴方 僕 \mathcal{O} 人生を知 の方が、この で読 み聞 むこ 0 7 カ 貰え 全 せ $\overline{\overline{}}$ 間 7 出 たと **\ \mathcal{O} に 事実を知 る 1 る、 \mathcal{O} いうことに でし \mathcal{O} ょ 0 \mathcal{O} う 5

た カ 僕 った は です。 貴 方と添 僕 でしょうけれど、 \mathcal{O} 人生は貴方でした。 VI 遂 げた \mathcal{O} 事実上貴方 で す。 僕は貴 貴方 は 僕 方と人生を過ご 勿 論 \mathcal{O} 望 ナ は

最 もうどうでもい 後に 頼 せ · 病 室 で 僕 なる、 \mathcal{O} 人生 で 会 最後まで村永規 0 完結 た 優 時 7 Ŕ です。 · 男 僕 物 11 弘 た 自 لح 分 カン 0 7 た 素性を貴 わ カゝ Ŋ 貴方に 5 す 方 話